

第 22 回 幹 事 会

平成 18 年 8 月 24 日

日 本 学 術 会 議

配布資料

資料 1 議事次第

資料 2 出席者一覧

資料 3 非公開審議事項

資料 4 第21回幹事会議事要旨

資料 5 諸報告事項

資料 6 審議事項

参考 1 第2次連携会員の発令状況

参考 2 委員会又は分科会に当該委員会又は分科会の委員以外の者を必要に応じて招く場合の旅費、手当について

参考 3 「2006年 AASSREC 理事会」概要（案）

参考 4 各委員会の活動状況の日本学術会議ホームページへの掲載（案）

参考 5 第3期科学技術基本計画（抜粋）

参考 6 日本学術会議における今後の予定

参考 7 日本学術会議第149回総会日程概要（案）

参考配布 総合科学技術会議パンフレット

第 2 2 回幹事会議事次第

日 時 平成 1 8 年 8 月 2 4 日 (木) 1 4 : 0 0 ~

議 題 I 非公開審議事項

- 1 委員会関係
 - ・ 分野別委員会における分科会、小委員会の設置等及び分科会の委員の決定 (提案 1)
- 2 外部推薦依頼への回答
 - ・ 委員候補者の推薦 (提案 2)

II 前回幹事会以降の諸報告

III 審議事項

- 1 日本学術会議細則の一部を改正する決定案 (総会) (提案 3)
- 2 代表派遣実施
 - ・ 平成 18 年度代表派遣 (10~12 月分) (提案 4)
 - ・ ワールド・ナレッジ・ダイアログへの出席 (提案 5)
- 3 日本学術会議・立命館共催国際シンポジウム “Gateway to India”
「グローバルイノベーションにおけるインドの可能性」 (提案 5)
- 4 委員会主催シンポジウム等
 - ・ 「URSI-C 第 11 回公開研究会」 (提案 6)
 - ・ 学術フォーラム「21 世紀を拓く日本の科学技術を目指して」 (提案 7)
 - ・ シンポジウム「サイエンスアゴラ 2 0 0 6」 (提案 8)
- 5 国内会議の後援 (提案 9)
- 6 各委員会等の活動状況等の公表 (提案 10)
- 7 外国人科学者の日本学術会議の活動への参加の在り方に関する問題提起

IV その他

資料 2

第 2 2 回 幹事会 (8 月 2 4 日) 出席者一覽

会 長	黒 川 清
副会長	浅 島 誠
副会長	大 垣 眞一郎

第一部 部長	広 渡 清 吾
副部長	佐 藤 学
幹事	江 原 由美子
幹事	鈴 村 興太郎

第二部 部長	金 澤 一 郎
副部長	唐 木 英 明
幹事	廣 橋 説 雄
幹事	鷺 谷 いづみ

第三部 副部長	土 居 範 久
幹事	河 野 長
幹事	小 林 敏 雄

事務局 西ヶ廣 局 長

諸 報 告 事 項

第1	前回幹事会以降の経過報告	P. 1
1	会長代理の指名	P. 1
2	審議付託等	P. 1
3	賞等の推薦	P. 1
4	国際会議の開催	P. 1
5	会長等出席行事	P. 2
6	国際委員会日本・モンゴル二国間学術交流派遣の実施	P. 2
7	委員会委員の辞任	P. 3
8	人事	P. 3
第2	各部・各委員会等報告	P. 4
1	幹事会附置委員会の開催とその議題	P. 4
2	機能別委員会の開催とその議題	P. 4
3	分野別委員会の開催とその議題	P. 4
4	課題別委員会の開催とその議題	P. 7
第3	総合科学技術会議報告	P. 9

第1 前回幹事会以降の経過報告

1 会長代理の指名

会長が海外出張につき、日本学術会議法第9条第2項の規定に基づき、下記のとおり副会長を会長代理に指名した。

期 間	用 務 先	会 長 代 理
8月5日～9日	モンゴル	大垣副会長

2 審議付託等

件 名	申 請 者	審 議 ・ 付 託 先
日本社会学会シンポジウム「人口減少社会のゆくえ」の後援について	日本社会学会会長	第一部 第二部
男女共同参画学協会連絡会第四回シンポジウムの後援について	男女共同参画学協会連絡会会長	第三部
第2回大阪大学臨床医工学融合研究教育センターシンポジウムの後援について	大阪大学臨床医工学融合研究教育センター長	第二部

3 賞等の推薦

件 名	照 会 先	備 考
第20回国際 Khwarizmi 賞	各部	推薦見送り
2007年レイD.大賞	各部	推薦見送り
FYSSSEN 財団国際賞	各部	照会中
世界食糧賞	各部	照会中

4 国際会議の開催

開 催 日	会 議 名	会 場
7月23日～ 7月28日	第25回天然物化学国際会議・第5回 生物多様性国際会議 (開会式：黒川会長出席)	国立京都国際会館
7月23日～ 7月28日	第19回国際鉱物学会議 (開会式：黒川会長出席)	神戸国際会議場

5 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
7月 21 日	[表敬訪問・意見交換] 中国科学技術協会 書記 (アジア学術会議 理事) 馮長根 (FENG Changgen)	黒川会長
8月 15 日	全国戦没者追悼式	黒川会長

6 国際委員会日本・モンゴル二国間学術交流派遣の実施

- 1 派遣期間 平成18年8月5日(土)～8月9日(水)
(春日委員は、8月7日(月)～8月9日(水)まで)
- 2 派遣団員 黒川 清 (会長、第2部)
唐木 英明 (第2部)
春日 文子 (第2部)

○派遣成果・内容

- ・ 本年はモンゴル建国800周年記念の年に当たり、モンゴル科学アカデミー会長から黒川会長あてに同アカデミーへの訪問要請があった。この機会に、上記3名の派遣団員及び西ヶ廣事務局長並びに事務局職員から成る日本学術会議代表団を同国へ派遣した。
- ・ モンゴル科学アカデミーにおける意見交換では、同会長から、アジア学術会議の会員とされたことに対する日本への感謝が表明され、アジア地域の連携と日本-モンゴル間の科学技術や学術における様々な交流推進への強い希望が伝えられた。
当意見交換では双方とも今後の協力を得ていくことで意見が一致し、その意見交換の成果は「Records of Discussion」という形で記録に残された。当記録では、主に日本学術会議とモンゴル科学アカデミーによって話し合われた、両国間における相互の学術分野の協力、科学者間の交流、アジア学術会議等を活用したアジア地域における相互の連携推進の必要性についての示唆が記録された。
- ・ モンゴル科学アカデミーでは、黒川会長による「Challenges of the Science and Technology」についての講演、及び唐木会員による「Food Risk Management in Japan」についての講演が行われた。当講演終了後は、講演の内容である科学・技術の発展、食品安全管理等について、モンゴル科学アカデミーの有識者・研究者との意見交換や、当トピックを取り巻く問題について有意義な話し合いが行われた。
- ・ 派遣団員は、モンゴル教育大臣を表敬訪問し、この度の当派遣の趣旨と日本学術会議の果たす役割を伝えるとともに、モンゴル教育大臣から、モンゴルにおける教

育政策や科学技術政策、日本との継続的な連携の必要性についての意見を拝聴した。

- ・ 派遣団員は、第9回国際モンゴル会議開会式に出席し、モンゴル科学アカデミー会長及び在モンゴル日本大使館市橋大使の講演を拝聴し、モンゴルにおける科学技術政策の高まりと今後の日本との協力の必要性について改めて認識した。

なお、詳細な報告は、後日「学術の動向」に掲載を予定している。

7 委員会委員の辞任

日本学術会議会則第28条第2項の規定により、下記委員会等に所属していた委員の辞任が同委員会において承認されましたので、報告します。

第20期 基礎医学委員会生体医工学分科会委員 桐野 高明
(平成18年8月11日付け)

第20期 地球惑星科学委員会委員 海部 宣男
(平成18年8月17日付け)

8 人 事

事 務 局

次 長 旧：福 井 武 弘 (平成18年 7月28日付け)
新：須 江 雅 彦 (" ")

参事官 (国際業務担当)

旧：坂 下 信 之 (平成18年 7月28日付け)
新：村 田 啓 子 (" ")

第2 各部・各委員会等報告

1 幹事会附置委員会の開催とその議題

- (1) 会長候補者推薦委員会 (第3回) (7月26日)
①役員を選出等 ②会員による郵送投票 ③その他

2 機能別委員会の開催とその議題

- (1) 科学と社会委員会 科学力増進分科会 (第7回) (8月6日)
①シンポジウムについて ②その他
- (2) 国際委員会持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2006 分科会
(第4回) (7月21日)
①各セッションのについて ②広報活動報告 (ポスター・セッション他) ③配布資料の構成について ④特別シンポジウム (立命館大学) について ⑤その他
- (3) 第17回 AASSREC 総会運営委員会 (第3回) (7月28日)
①2006年AASSREC理事会 (2006年9月14日、日本学術会議) の開催について
②第17回AASSREC総会 (2007年9月27日～10月1日、名古屋) の開催について
③IFSSO2006年ワークショップ (2006年11月7日～11日、フィリピン) への派遣について
④その他

3 分野別委員会の開催とその議題

第一部関係

- (1) 心理学・教育学委員会 (第4回) (7月26日)
①分科会の設置について ②学協会との連携について ③その他

第二部関係

- (1) 臨床医学委員会 出生・発達分科会 (第1回) (7月26日)
①委員長、副委員長、幹事の選出について ②今後の活動方針について ③その他
- (2) 臨床医学委員会 身体機能回復分科会 (第1回) (7月26日)
①委員長、副委員長の選任について ②今後の活動方針について ③その他
- (3) 歯学委員会 (第5回) (7月26日)
①今後の活動について ②その他
- (4) 臨床医学委員会 血液・造血分科会 (第1回) (7月27日)
①委員長、副委員長、幹事の決定について ②今後の活動方針について ③その他

- (5) 生産農学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 新興・再興感染症分科会
(第1回) (7月27日)
①委員長、副委員長の決定 ②今後の活動方針について ③その他
- (6) 農学基礎委員会 農業生産環境工学分科会 (第2回) (7月28日)
①課題審議について ②その他
- (7) 農学基礎委員会 農業と環境分科会 (第2回) (7月28日)
①課題審議について ②その他
- (8) 農学基礎委員会 農芸化学分科会 (第1回) (7月28日)
①分科会委員長の決定について ②本年度及び来年度の事業計画 (今後の予定) について ③その他
- (9) 基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同 細胞生物学分科会
(第1回) (8月1日)
①委員長、副委員長、幹事の選出について ②今後の活動方針について ③その他
- (10) 基礎医学委員会 機能医科学分科会 (第1回) (8月3日)
①委員長、副委員長、幹事の決定について ②今後の活動方針について ③その他
- (11) 基礎生物学委員会・応用生物学委員会・基礎医学委員会合同分子生物学分科会
(第1回) (8月7日)
①委員長、副委員長、幹事の選出について ②今後の活動方針について (分子医科学分科会との連携等について) ③その他
- (12) 基礎医学委員会 分子医科学分科会 (第1回) (8月9日)
①委員長、副委員長、幹事の選出について ②今後の活動方針について (分子生物学分科会との連携等について) ③その他
- (13) 基礎医学委員会 生体医工学分科会 (第1回) (8月11日)
①委員長、副委員長、幹事の選出について ②今後の活動について ③その他
- (14) 農学基礎委員会 水問題分科会 (第2回) (8月16日)
①課題審議について ②シンポジウムについて ③その他
- (15) 臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同 生活習慣病対策分科会
(第1回) (8月17日)
①委員長、副委員長、幹事の選出について ②今後の活動方針について ③その他
- (16) 臨床医学委員会 救急・麻酔分科会 (第1回) (8月22日)
①委員長、副委員長の選出について ②今後の活動方針について ③その他

- (17) 臨床医学委員会 終末期医療分科会 (第1回) (8月22日)
①委員長、副委員長、幹事の選出について ②今後の活動方針について ③その他
- (18) 基礎医学委員会 免疫学分科会 (第1回) (8月24日)
①委員長、副委員長等の選出について ②今後の活動方針について ③委員の辞任について ④その他

第三部関係

- (1) 化学委員会 化学企画分科会 (第1回) (7月26日)
①委員長等の選出 ②化学委員会の活動方針、活動内容の具体化 ③分科会設置とその課題 ④小委員会・WG設置の検討 ⑤その他
- (2) 地球惑星科学委員会 国際対応分科会 (第2回) (7月28日)
①小委員会の設立・開催状況について ②国際地球観測年50周年に関わる各種事業について ③国際委員会における審判状況について ④今後の運営について ⑤その他
- (3) 総合工学委員会・機械工学委員会合同 科学技術イノベーション力強化分科会
(第2回) (7月31日)
①日本学術会議におけるイノベーションについて ②その他
- (4) 情報学委員会 (第5回)・情報学委員会 情報学推進分科会 (第1回) 合同委員会
(8月1日)
①最近の経過報告 二次連携会員等 ②問題提起の方向性の議論

*15分のプレゼン+15分の議論のテーマ

- ・ ソフトウェア工学や情報通信の社会価値や夢、リスクは何か
 - ・ 我が国でのE-サイエンスの推進の戦略
 - ・ IT分野での国際的リーダーシップ獲得に向けて
 - ・ 情報関連の新しい学問領域形成の可能性に向けて (1)
 - ・ 情報関連の新しい学問領域形成の可能性に向けて (2)
- (5) 電気電子工学委員会 URSI分科会 (第2回) (8月3日)
①URSI分科会の構成について ②URSI Position Statements and White Papersについて ③AP-RASC2007について ④各Commission活動報告 ⑤その他
- (6) 土木工学・建築学委員会 拡大役員会 (第4回) (8月8日)
①第2回議事録(案)の確認について ②分科会について ③課題別委員会について ④その他
- (7) 情報学委員会 (第6回) (8月22日)

①最近の経過報告 第二次連携会員等 ②メンバーのプレゼンと議論による課題への方向性付け

- ・情報関連の新しい学問領域形成の可能性に向けて
情報爆発/情報大航海/情報大洪水・・・
ネットワーク時代のデータコンテンツ学
- ・情報学に夢とビジョンを ー情報系大学院からの提言
- ・既存分科会からの話題提供 ユビキタス関連
- ・第1回拡大情報学委員会での話題提供の反復議論

③今後のすすめ方、その他

(8) 基礎生物学委員会・物理学委員会・化学委員会・総合工学委員会

・材料工学委員会合同 科学・技術の発展のための知覚情報取得技術の強化に関する検討分科会 (第1回) (8月23日)

- ①委員長及び幹事の選出について ②分科会の運営方針について ③委員の追加推薦について ④知覚情報取得技術の各分野における貢献度と内外依存比等について ⑤その他

4 課題別委員会の開催とその議題

(1) 地球規模の自然災害に対して安全・安心な社会基盤の構築委員会拡大役員会

(第2回) (7月26日)

- ①各分科会からの報告 ②本委員会の検討目標について ③適正水準について ④その他

(2) 地球規模の自然災害に対して安全・安心な社会基盤の構築委員会役員会

(第2回) (8月4日)

- ①報告書の構成について ②今後の活動について ③その他

(3) 学術・芸術資料保全体制検討委員会 (第4回) (8月4日)

- ①意見聴取 (図書館関係等) ②主催公開講演会について ③報告書構成案について ④その他

(4) 科学者コミュニティと知の統合委員会 役員会 (第2回) (8月14日)

- ①今後の進め方について ②その他

(5) 地球規模の自然災害に対して安全・安心な社会基盤の構築委員会

地球規模の自然環境の変化と自然災害の予測分科会 (第2回) (8月18日)

- ①辻本委員からの報告 ②山形委員からの報告 ③その他

(6) 地球規模の自然災害に対して安全・安心な社会基盤の構築委員会

災害に対する社会基盤の脆弱性の評価と適正な水準と配備に関する検討分科会

(第3回) (8月21日)

- ①古関委員からの話題提供 ②各災害における共通の問題について ③その他

(7) 科学者の行動規範に関する検討委員会役員会（第1回）（8月23日）

- ①科学者の行動規範に関する調査について
- ②科学者の行動規範について
- ③その他

第3 総合科学技術会議報告

1 本会議

*第57回 7月26日

- (1) 科学技術の振興のための制度改革について（中間報告）
- (2) 公的研究費の不正使用等の防止に関する取組の状況について
- (3) 優先順位付け等の改革について
- (4) 国家基幹技術の評価について
- (5) 最近の科学技術の動向

2 総合科学技術会議有識者議員会合

- ・ 8月 10日 *会長出席
- ・ 8月 23日

審 議 事 項

提案 3	日本学術会議細則の一部を改正する決定案	P. 1
提案 4	平成 18 年度代表派遣（平成 18 年 10～12 月分）	P. 3
提案 5	日本学術会議・立命館共催国際シンポジウム “Gateway to India” 「グローバルイノベーションにおけるインドの可能性」の開催	P. 7
提案 6	URSI-C 第 11 回公開研究会の開催	P. 10
提案 7	学術フォーラム「21 世紀を拓く日本の科学技術を目指して」の開催	P. 11
提案 8	シンポジウム「サイエンスアゴラ 2006」の開催	P. 12
提案 9	国内会議の後援	P. 13
提案 10	各委員会等の活動状況等の公表	P. 14

3	
幹事会	2 2

提 案 (総会)

日本学術会議細則の一部を改正する決定案

1. 提 案 者 数学委員会委員長
2. 議 案 分野別委員会の名称を変更する。
(「数学委員会」を「数理科学委員会」に変更する。)

3. 提案理由

「数学」と「数理科学」という言葉がさす学問領域の範囲については、研究者によって意見が異なり、確たる区別があるわけではない。一部の人は、「数学」という名称を比較的狭くとらえ、数学とそれ以外の科学の接点にあたる部分を数理科学と呼ぶが、別の人たちは、数学という名称を広くとり、その両者を含めて数学と呼んでいる。

これは名称の使い方の習慣の違いであり、学術的な意味があるわけでない。「数学」と「数理科学」の使い分けについては、日本学術会議の分野別委員会の名称として使うことにより、何らかの統一を行う意志はなく、またそれは、名称の変更の提案の趣旨ではない。

「数理科学」という名称を「数学」より広いものととらえる人たちは、広い意味の数学あるいは数理科学の専門家に多いため、数学委員会という名称では、それらの人の間で、自身の専門領域が、この分野別委員会に含まれないという誤解を生む可能性がある。一方、狭い意味の数学の専門家は、数学委員会・数理科学委員会の、どちらの名称でも、自身の専門がそこに入ると理解すると思われる。

第19期では研究連絡委員会の名称は数学研究連絡委員会であったが、分野別委員会のカバーする範囲はより広いことから、数理科学の方が数学より、分野別委員会の名前にふさわしい。

以上の理由によって、分野名「数学」を「数理科学」に変更することを提案するものである。

日本学術会議細則（平成17年10月4日日本学術会議第146回総会決定）の一部を次のように改正する。

次の表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付した部分をこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線を付した部分のように改める。

改正後			改正前		
別表第3（第10条関係）			別表第3（第10条関係）		
委員会名	委員会名	委員会名	委員会名	委員会名	委員会名
(略)	(略)	<u>数理科学委員会</u> (略)	(略)	(略)	<u>数学委員会</u> (略)

附 則

この決定は、決定の日から施行する。

4	
幹事会	22

提 案

平成18年度代表派遣（平成18年10～12月分）

- 1 提案者 会長
- 2 議 案 標記について、別紙のとおり実施すること。
- 3 提案理由 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」第19条の規定に基づくものである。

<参考> 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」（抄）

（派遣者の選考）

- 第19条** 会長及び関係委員長は、幹事会で承認された派遣実施計画に基づき、代表を派遣すべき会議等（以下「代表派遣会議」という。）のそれぞれの内容等に応じて、学術会議会員（以下「会員」という。）の中から適任者を選考し、様式第7に定める代表派遣会議候補者推薦書により派遣候補者を会長に推薦するものとする。ただし、学術会議連携会員（以下「連携会員」という。）の中に適任者があると認められる場合は、その者を候補者として推薦することができる。
- 2 会長は、前項の規定により推薦された派遣候補者について、原則として代表派遣会議が開始される日の1か月前までに開かれる幹事会の議決を経た上、学術会議の代表として派遣される者（以下「派遣者」という。）として派遣するものとする。

番号	国際会議等	派遣日数		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備考
		会期分	計			
45	第2回ジオパーク世界会議	9月17日 ~ 9月21日	5日	ベルファスト アイルランド	佃 栄吉 特任連携会員 独立行政法人産業技術総合研究所研究 コーディネータ	地球惑星科学委員会国際対応分科会 第2区分
46	CACGP/IGAC/WMO合同大気化学シンポジウ ム2006	9月17日 ~ 9月22日	6日	ケープタウン 南アフリカ	河村 公隆 特任連携会員 北海道低温科学研究所教授	環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 IGBP/WCRP合同対応分科会 第2区分
47	気候変動国際協同研究計画(WCRP) 第14回SPARCサイエンス代表グループ会議	10月9日 ~ 10月12日	4日	ボールドー 米国	林田 佐智子 特任連携会員 奈良女子大学教授	環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 IGBP/WCRP合同対応分科会 第2区分
48	気候変動国際協同研究計画 (WCRP)GEWEX第12回GHP委員会	10月9日 ~ 10月13日	5日	フラスカーティ イタリア	松本 淳 特任連携会員 東京大学大学院地球惑星科学専攻助教授	環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 IGBP/WCRP合同対応分科会 第2区分
49	国際社会科学団体連盟(IFSSO) Scientific Workshop	10月10日 ~ 10月14日	5日	タガヤタイシティ フィリピン	小松 照幸 特任連携会員 名古屋学院大学経済学部助教授	国際委員会AASSREC等分科会 第2区分
50	国際社会科学団体連盟(IFSSO) Scientific Workshop	10月10日 ~ 10月14日	5日	タガヤタイシティ フィリピン	西原 和久 特任連携会員 名古屋大学大学院環境学研究科教授	国際委員会AASSREC等分科会 第2区分

番号	国際会議等	派遣日数		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備考
		会期分	計			
49	国際純粋・応用物理学連合(IUPAP)理事会及びコミッション議長会議	10月13日 ~ 10月14日	2日	プラハ チェコ	潮田 資勝 連携会員 北陸先端科学技術大学院大学学長	物理学委員会・総合工学委員会合同IUPAP分科会 第2区分
50	第20回CODATA国際会議	10月22日 ~ 10月27日	6日	北京 中国	長島 昭 特任連携会員 横浜国立大学理事	情報学委員会 第1区分
51	10th IMA 2006	10月23日 ~ 10月25日	3日	ソウル 韓国	森田 喬 連携会員 法政大学工学部教授	地球惑星科学委員会国際対応分科会 第2区分
52	海洋研究科学委員会(SCOR)第28回総会	10月23日 ~ 10月26日	4日	コンセプション チリ	蒲生 俊敬 特任連携会員 東京大学海洋研究所教授	地球惑星科学委員会国際対応分科会 特別派遣
53	国際地理学連合(IGU)役員会	11月11日 ~ 11月16日	6日	チュニス チュニジア	田邊 裕 特任連携会員 帝京大学経済学部長	地球惑星科学委員会国際対応分科会 第2区分
54	国際農業工学会(CIGR)2006年11月幹部会及び関連会議	11月18日 ~ 11月19日	2日	ボローニャ イタリア	前川 孝昭 特任連携会員 筑波大学農林工学系教授	農学基礎委員会・生産農学委員会合同CIGR分科会 第2区分

番号	国際会議等	派遣日数		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備考
		会期分	計			
55	地球環境変化の人的側面に関する2006年ベルリン会議	11月17日 ~ 11月18日	2日	ベルリン ドイツ	氷見山幸夫 連携会員 北海道教育大学旭川校教授	地域研究委員会・環境学委員会合同IHDP分科会 第2区分
56	国際人類学・民族学会議(2006年会議)	12月3日 ~ 12月7日	5日	ケープタウン 南アフリカ	小泉潤二 連携会員 大阪大学大学院人間科学研究科長・人間科学部長・教授	地域研究委員会 第2区分

6	
幹事会	22

提 案

日本学術会議・立命館共催国際シンポジウム“Gateway to India”
「グローバルイノベーションにおけるインドの可能性」の開催

- 1 提案者 会長
- 2 議案 標記会議を下記のとおり開催すること

記

- (1) 会議名 日本学術会議・立命館共催国際シンポジウム“Gateway to India”
「グローバルイノベーションにおけるインドの可能性」
- (2) 日 程 平成18年9月7日（木）
- (3) 場 所 立命館大学衣笠キャンパス 創思館カンファレンスルーム
- (4) 主 催 日本学術会議（S C J）、立命館大学、立命館アジア太平洋大学
- (5) 後 援 京都産学工連携機構、京都商工会議所
- (6) 会議概要 現在、インドは世界の経済発展において中国に続き将来の重要な中心地域となる可能性が高いとして注目されており、日本においても IT 産業だけでなく各種産業界における新規展開にかかわりその関心が高まってきている。日本学術会議は「ーグローバル・イノベーション・エコシステムー持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2006」（2006年9月8日（金）～9日（土）於：

国立京都国際会館)の開催とあわせて、立命館大学、立命館アジア太平洋大学と共催し、特にインドによる今後の世界経済へのインパクトを取り上げて、インドにおける技術革新の方向、文化的背景、社会システム改革の状況を含めて各専門家によるディスカッションを行う。

(7) プログラム 13:00-13:10 開会

司 会：佐和隆光（立命館大学政策科学部教授）

開会挨拶：黒川 清（日本学術会議会長）

川村貞夫（立命館大学副総長）

コーディネーター：モンテ・カセム（立命館アジア太平洋大学学長）

13:10-14:50 講演

報告1：ニーナ・グプタ（インド・前デリー大学助教授）

報告2：ナヴィナ・ジャファ（インド・歴史学者）

報告3：絵所秀樹（法政大学経済学部教授）

報告4：長崎暢子（龍谷大学国際文化学部教授）

質疑応答：30分

14:50-15:10 休憩

15:10-16:50 講演

報告5：ブラフマ・チェラニー（インド・政策研究センター教授）

報告6：モンテ・カセム（立命館アジア太平洋大学学長）

報告7：佐和隆光（立命館大学政策科学部教授）

報告8：西ヶ廣渉（日本学術会議事務局長）

質疑応答：30分

各質疑応答は報告者やフロアーも含めて

16:50-17:00 閉会

まとめ・閉会

(8) 参加者数 100人（含む海外招へい者3人）

(9) 招待講演者 ブラフマ・チェラニー(Brahma Chellaney)

政策研究センター(Centre for Policy Research)教授、インド

ニーナ・グプタ(Nina Gupta)

デリー大学教授、インド

ナヴィナ・ジャファ(Navina Jafa)

歴史学者、インド

長崎暢子

龍谷大学国際文化学部教授

佐和隆光

立命館大学政策科学部教授

絵所秀樹

法政大学経済学部教授

(10) 会議形式 全体会議（オープン；収容100名程度）

(11) 使用言語 原則、日本語。報告については、日英同時通訳あり。

7	
幹事会	22

URSI-C第11回公開研究会の開催

1. 提案者 電気電子工学委員会委員長
2. 議案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

- 1 主催 日本学術会議電気電子工学委員会URSI分科会
- 2 協賛 IEEE MTT-S Japan Chapter
IEEE AP-S Japan Chapter
IEEE VT-S Japan Chapter
新潟大学工学部附属国際情報通信教育研究センター
- 3 日時 2006年8月25日(金) 13:00～17:30
- 4 会場 新潟大学自然科学研究科 管理棟2F 大会議室
(〒950-2181 新潟市五十嵐2の町8050番地)
[交通] ・新潟駅前(万代口)バスターミナルからバス約40分
「7番のりば」から西小針経由新潟大学・内野営業所行き、または、
西小針・新潟大学経由内野営業所行きで「新潟大学西門」下車
・内野駅からタクシーで約10分(徒歩15分)
- 5 次第
プログラム：(講演時間は質疑込みの時間)
テーマ：「電波とエネルギー」
13:00-13:10 開会挨拶
13:10-14:10 慶応義塾大学オートIDラボラトリ 三次 仁
「パッシブタグの研究動向」
14:10-15:10 NTT未来ねっと研究所 清水 雅史
「アクティブタグの研究動向」
15:10-15:25 休憩
15:25-16:25 京都大学生存圏研究所 篠原 真毅
「電波の第3の利用法—無線電力伝送—」
16:25-17:25 京都大学生存圏研究所 橋本 弘藏
「宇宙太陽発電所送電システムにおける信号処理」
ナイトセッション：富士通研究所ネットワークシステム研究所 馬庭 透
「特定小電力型UHF帯RFIDデモ」
- 6 その他
参加費：無料。
参加資格：電波に興味のある方ならどなたでも
ホームページ <http://www.acr.atr.jp/acr/ursi/>

8	
幹事会	22

提 案

学術フォーラム「21世紀を拓く日本の科学技術を目指して」の開催

1. 提案者 電気電子工学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議電気電子工学委員会
2. 共 催 学術フォーラム「21世紀の日本の科学技術」実行委員会
(社) 応用物理学会
3. 日 時 平成18年9月30日(土) 13:30～18:00
4. 場 所 東京大学生産技術研究所 駒場コンベンションホール(An棟)
(東京都目黒区駒場4-6-1)
5. 議事次第
 - 13:30～13:40 実行委員長挨拶 榊 裕之(東京大学教授・電気電子工学委員会幹事)
 - 13:40～14:20 特別講演 『日本の研究開発とイノベーション』
生駒 俊明(科学技術振興機構 研究開発戦略センター センター長)
 - 14:20～15:00 特別講演 『TiO₂光触媒:その発見と発展』
藤嶋 昭(東京大学 名誉教授/ (財) 神奈川科学技術アカデミー理事長)
 - 15:00～15:15 特別記念賞(丸文学術貢献賞)授与
 - 15:15～15:30 休 憩
 - 15:30～15:55 学術講演 『フォトニクス結晶:進展と未来』
野田 進(京都大学工学研究科 電子工学専攻 教授)
 - 15:55～16:20 学術講演 『化粧品が21世紀を照らす光に大変身』
川崎 雅司(東北大学金属材料研究所 教授)
 - 16:20～17:10 総合討論 『気鋭の研究者が語る将来ビジョン・人・組織』
 - 17:10～18:00 ポスター展示

9	
幹事会	22

提 案

シンポジウム「サイエンスアゴラ2006」の開催

- 1 提 案 者 科学と社会委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議科学と社会委員会科学力増進分科会
- 2 共 催 日本科学未来館、科学技術振興機構
- 3 協 力 日本科学未来館、文部科学省科学技術政策研究所、東京大学
(予 定) 科学技術インタープリター養成講座、北海道大学 CoSTEP、
大阪大学 CSCD、科学技術広報財団、国立科学博物館 等
- 4 日 時 平成18年11月25日～27日 (月)
- 5 会 場 日本科学未来館・東京国際交流館
(江東区青海2丁目41番地・江東区青海2丁目79番地)
- 6 委員会の開催 科学力増進分科会を日本科学未来館において開催
- 7 次 第
 - 1 11月25日 (土)
 - 13:00～15:00 ワークショップ
 - 15:00～16:00 講演会
 - 16:00～17:00 基調講演
 - 1 11月26日 (日)
 - 9:00～12:00 ワークショップ
 - 13:00～14:00 セミナー
 - 14:00～15:00 講習会
 - 15:00～17:00 シンポジウム
 - 17:00～19:00 サイエンスカフェ
 - 1 11月27日 (月)
 - 9:00～12:00 講習会
 - 13:00～15:00 セミナー
 - 15:00～17:00 シンポジウム

企画展示 11月25日 (土) ～27日 (月)

10	
幹事会	22

提 案

国内会議の後援

- 1 提案者 会 長
- 2 議 案 後援の依頼について回答すること。
- 3 提案理由 下記の会議について、後援の依頼があり、関係する部等に審議付託した結果を下記のとおり回答することとしたい。
 なお、依頼のあった行事等の概要は別紙のとおりである。

記

○ 後援する

名 称 等	申 請 者	審議付託先
第2回 大阪大学臨床医工学融合研究教育センターシンポジウム ① 主催：大阪大学臨床医工学融合研究教育センター ② 会期：平成18年10月8日～9日 ③ 場所：大阪大学銀杏会館	大阪大学臨床医工学融合研究教育センターセンター長	第二部

1 1	
幹事会	2 2

提 案

各委員会等の活動状況等の公表

- 1 提案者 生産農学委員会委員長長

- 2 議 案 標記について、別添案のとおり掲載すること

- 3 提案理由 各委員会等の活動状況等を日本学術会議ホームページに掲載
するため。

※ 日本学術会議の意志の表出における取扱要領「3」

3 各委員会等の活動状況等の公表

各部、各委員会が、ホームページ等に掲載する等の方法で、審議状況や活動方針等の公表を行う場合は、日本学術会議としての意志の表出に準ずることから、事前に幹事会の了解を得るものとする。

生産農学委員会林学分科会の活動状況の日本学術会議ホームページへの掲載（案）

生産農学委員会林学分科会

1 ホームページにおける掲載条件

>生産農学委員会林学分科会

>設置根拠（PDF）

>委員名簿（PDF）

>第1回林学分科会議事要旨（以下の内容をPDFで掲載）

2 活動内容の記載

第1回林学分科会議事要旨

生産農学委員会林学分科会（第20期 第1回）議事録（案）

日時：平成18年6月25日（日）13:00~14:45

場所：東京大学農学部5号館102会議室

出席者：飯塚（会員：東京家政大）、太田（連携会員：東京農大）、永田（連携会員：東大）、磯貝（連携会員：東大）、小熊（日本学術会議事務局）

議題

1. 議事に先立ち、飯塚委員が資料1に基づいて林学分科会の設置に関連して、所属委員会名、委員の構成、設置目的、審議事項、設置期間について説明した。
2. 日本学術会議事務局より分科会委員長、副委員長、幹事2名の選出プロセス等について説明があった。
3. 林学分科会委員長に飯塚日本学術会議会員、副委員長に永田連携会員を選出した。幹事2名については、追加の連携会員が決まってから（本年10月以降）選出することとした。
4. 分科会の運営方針（何を議論し、どのような活動とするか）について議論した。その中で、学協会との連携、森林・環境・木材アカデミーとの関係が焦点となった。以下に主要な発言を要約する。
 - ・森林・環境・木材アカデミーにどのように関わるか、積極的に連携すべきであるが、どのように連携するかについて更に議論を深める必要がある。
 - ・上記アカデミーは発足当初に比べて会員が拡大されており、日本学術会議の「協力学術研究団体」のカテゴリーを越える会員も含まれている可能性がある。したがって、連携をする場合、その点に留意する必要があるかもしれない。
 - ・日本学術会議としては、当初は個々の研究者を主要構成員として学協会とは距離を置く方針であったが、その後「協力学術研究団体」との連携を進める方針になっていることが紹介された。具体的な連携の構想については未定となっている。

5. その他

- ・分科会開催回数は年3回が目安。
- ・次回の分科会委員会開催は、9月末までに追加の連携会員が決まり、10月上旬に総会が開催されることから、追加連携会員が決定した後、9月末から10月上旬に予定する。なお、事務局から、分科会の開催には委員の過半数の参加が必要であるため、余裕をみた日程とすることが必要であるとの発言があった。
- ・事務局から、資料2に基づいて、分科会の開催場所、旅費の支給、シンポジウム等の開催（主催、後援）、日本学術会議の会場使用等について説明があった。
- ・事務局から、名簿作成の可否について相談があり、作成が了承された。そのため予め準備した名簿を参加者に配布した。
- ・分科会からの情報発信の方策（学術会議のHPに割当可能かどうか、それに対するリンク等）については学術会議内で検討中であることが、事務局から説明された。
- ・太田委員より7/8開催の「農学アカデミー」シンポジウムについて、パンフレットにもとづき説明と参加要請があった。

（以上）

外国人科学者の日本学術会議の活動への参加の在り方に関する問題提起

平成 18 年 8 月 24 日

浅島副会長

現在、第 20 期の連携会員を全て任命し、会員及び連携会員による日本学術会議の体制を整備することに尽力しているが、一方、優れた外国人科学者に対し、どのように日本学術会議の活動に参加してもらうことが適切かについては、今後の重要な論点と考えられる。

<背景>

1 平成15年2月26日の総合科学技術会議の「日本学術会議の在り方について」と題する総理への意見具申では、「一定数以上の外国人研究者を「連携会員」とするものとする。」とされている。

2 これを受け、平成17年7月13日、日本学術会議の「日本学術会議の新しい在り方に関する懇談会」が取りまとめた「日本学術会議の新しい体制の在り方～新体制の円滑な発足のための提案～」では、連携会員とは別のものとして「適当と認める日本人及び外国人の優れた科学者に対し、「会友」(Friends of the Council)の称号を付与する。」とされている。

3 平成17年10月5日、日本学術会議第146回総会では、議長から「まずは日本学術会議のボディーを作ってから検討すべきではないか。選ばれることがプレステージとなるようなフォーリンメンバーは別途考えてもいいと思う。」という趣旨の発言があった。

(注)なお、日本学術会議は国の特別機関であり、会員は特別職の、連携会員は一般職の非常勤国家公務員であることから、国家公務員に求められる国籍要件の問題上、外国人を連携会員等に任命することは、現行法制上は困難である。

平成 18 年 8 月 24 日

日本学術会議事務局

各国の主要学術会議の概要

国名	日 本	米 国	英 国	フ ラ ンス	ド イ ツ	中 国
学術会議名称	日本学術会議	全米科学アカデミー	英国王立協会 (英国学士院)	フランス科学アカデミー	ドイツ学術アカデミー連 合	中国科学院
	Science Council of Japan (SCJ)	National Academy on Sciences (NAS)	The Royal Society	French Academy of Sciences (FAS)	Union of German Academies of Sciences and Humanities (UGASH)	Chinese Academy of Sciences
設立年	1949 年	1863 年	1660 年	1666 年	1893 年	1947 年
設置根拠	日本学術会議法	議会令	1663 年国王チャールズ二 世による勅許	ルイ 14 世によって設立	政府への登録定款	指導者の指示
会員数	会員 210 名 連携会員 約 2,000 名	会員 1,836 名 (Members) 外国人会友 317 名 (Foreign Associate) 名誉会員 91 名 ※会員は、米国市民権を持 つこととされる。外国人 会友は、アカデミーの会 合に参加することはでき るが、投票・署名する 資格は認められていな い。	会員 1,316 名 (Fellows) 外国人会員 135 名 (Foreign Members) 名誉会員 1 名 ※会員は、英国連邦又はア イルランド共和国の市民 から選ばれ、それ以外の国 のメンバーは外国人会員 として選ばれる。外国人会 員は、公開されている協会 の活動に参加できるが、会 員の選挙には投票できな い。	会員 260 名 (Members) 外国人会友 142 名 (Associated foreigners) ほか ※外国人会友は、アカデミ ーの活動に参加できる とともに、アカデミーで 報告することできるが、 投票する資格は認めら れていない。	正会員 400 名 ほか ※7 地方アカデミーの連合 体。 ※ホームページ等、既存資 料には外国人の扱いに ついて記述見られず。	院士 633 名 ※140 名ほどの外国人専門 家が科学院や研究所の 名誉客員職についてい る。

(注) 本資料は、「各国アカデミー等調査報告書」(平成 15 年 7 月 15 日、日本学術会議国際協力常置委員会)を基に、最近の情報を補足して作成した。

第2次連携会員の発令状況等

平成18年8月24日

平成18年8月20日付任命

計1,513人

[発令状況等]

候補者区分		任命	辞退	重複
会員・連携会員推薦	1,486人	1,483人	3人	—
会長調整枠	32人	30人	1人	1人
計	1,518人	※ 1,513人	4人	1人

※ 「特任連携会員」からの発令換え：61人



任期別内訳

3年任期 (平成20年9月30日迄)	759人
6年任期 (平成23年9月30日迄)	754人

(参考)

第2次連携会員の五十音順名簿及び専門分野別名簿については、次の日本学術会議ホームページのURLに掲載。

<http://www.scj.go.jp/ja/scj/index.html>

同様に、第1次分と第2次分を統合した連携会員の五十音順名簿及び専門分野別名簿についても、上記のURLに掲載。

委員会等において委員以外の者を招く場合の旅費及び手当等について

平成 18 年 8 月 24 日

日本学術会議事務局

委員会又は分科会（以下、「委員会等」という。）に当該委員会等の委員以外の者を必要に応じて説明者等（以下、「説明者」という。）として招く場合の旅費及び手当等の支給は、以下のとおりとなります。

いずれの場合も、予算の範囲内での支給となりますので、事務局に御相談下さい。

1. 説明者が、会員又は連携会員である場合

旅費、手当を支給できます。

2. 説明者が、会員又は連携会員以外である場合

（1）分野別委員会、機能別委員会の場合

説明者に対し、旅費及び手当を支給するためには、当該説明者をあらかじめ当該委員会等の特任連携会員に任命する必要があります。

なお、特任連携会員の任命に当たっては、幹事会の承認や当該説明者の所属長の承認等の手続に約 1 か月の時間が必要ですので、早めに御相談下さい。

（2）課題別委員会の場合

説明者に対し、旅費及び謝金を支給できます。

「2006年 AASSREC 理事会」概要（案）

- 1 会議名 英語：Executive Council Meeting of the Association of Asian Social Science Research Councils (AASSREC)
- 2 開催時期 平成18年9月14日(木) 10:00－12:00
- 3 開催場所 日本学術会議 5-A (1), (2) 会議室
- 4 主 催 AASSREC
日本学術会議
- 5 出席者 AASSREC役員 4名
日本国内委員会(AASSREC等分科会委員) 12名(戒能 AASSREC 会長重複)
オブザーバー 2名 計 17名(予定)

No	役職名	氏名	所属等
1	会長 President	戒能 通厚 Prof. Michiatsu Kaino	日本学術会議国際委員会 AASSREC 等分科会委員
2	副会長 Vice-President	Dr. Andre Beiteille	President, Indian Council of Social Science Research (ICSSR)
3	副会長 Vice-President	Mr. Chobvit Lubpairee	Deputy Secretary-General, The National Research Council of Thailand (NRCT)
4	事務局長 Secretary	Dr. John Beaton	Executive Director Academy of the Social Sciences in Australia
5	日本国内委員会委員 Secretary-General, Japanese National Committee	小谷 汪之 Prof. Hiroyuki Kotani 他 AASSREC 分科会委員	日本学術会議国際委員会 AASSREC 等分科会委員長
6	オブザーバー Observer	Ms. Choosri Keedumrongkool	Dirctor, Office of International Affairs, The National Research Council of Thailand (NRCT)
7	オブザーバー Observer	Ms. Sumida Phawasutthikul	Foreign Relations Officer, Office of International Affairs, The National Research Council of Thailand (NRCT)

6 会議の目的 第17回 AASSREC 総会プログラム等の検討

7 スケジュール(案)

10:00~12:00 AASSREC 理事会

13:30~15:30 国際委員会 AASSREC 等分科会

8 経費負担

項 目	機 関 名
役員(副会長2名及び事務局長) ・ 航空運賃 ・ 宿泊費	AASSREC 事務局
オブザーバー(タイ NRCT2名)	NRCT(自己負担)

9 宿泊ホテル

ホテルプレジデント青山

〒107-0062 東京都港区南青山 2-2-3

TEL: 03-3497-0111 FAX: 03-3401-4816

(最寄駅 銀座線・半蔵門線・大江戸線 青山一丁目)

環境学委員会・数学委員会・物理学委員会・地球惑星科学委員会・
情報学委員会・化学委員会・総合工学委員会・機械工学委員会・
電気電子工学委員会・土木工学・建築学委員会・材料工学委員会
の活動状況の日本学術会議ホームページへの掲載（案）

環境学委員会
数学委員会
物理学委員会
地球惑星科学委員会
情報学委員会
化学委員会
総合工学委員会
機械工学委員会
電気電子工学委員会
土木工学・建築学委員会
材料工学委員会

1 ホームページにおける掲載案件

- > 環境学委員会
- > 数学委員会
- > 物理学委員会
- > 地球惑星科学委員会
- > 情報学委員会
- > 化学委員会
- > 総合工学委員会
- > 機械工学委員会
- > 電気電子工学委員会
- > 土木工学・建築学委員会
- > 材料工学委員会
- > 第三部関係の分野別委員会の組織と活動内容（PDF）

2 活動内容の記載【別紙の内容をPDFで掲載】

日本学術会議第三部 分野別委員会の組織と活動ファイル

(2006年7月26日現在)

1 分野別委員会名	環境学委員会		
分野の活動方針	社会的要請の強さ、実体としての研究活動の活発さにくらべて、その学術的体系化や研究の全体的枠組と戦略が弱い。それらの強化を当面の活動目的とする。		
委員会の組織方針 ・基本的役割	環境学の体系的推進と対外的アピール。学術分野横断的に分科会を設け、その統括・調整を委員会が担う。		
委員会委員	(委員:19名) 進士 五十八、今中 忠行、淡路 剛久、石川 幹子、栗原 和枝、 今榮 東洋子、村上 周三、飯塚 堯介、毛利 衛、入倉 孝次郎、 池田 駿介、大垣 眞一郎、古川 勇二、仙田 満、林 良博、 鷺谷 いづみ、岸 玲子、桑野 園子、碓井 照子	(役員と連絡先) 委員長:進士 五十八 TEL:03-5477-2428 FAX:03-5477-2625 MAIL: shinji@nodai.ac.jp	
分科会の設置方針 ・基本的役割	環境学は1~3部横断的であるので、専門分科会(ディシプリン)にすると他の委員会に含まれてしまうので、課題別分科会とした。		
2 分科会等名称	目的・活動方針 ・設置期間の目安	分科会等委員	役員と連絡先
環境科学分科会	環境学のSCIENTICな体系化。 環境研究の戦略的展開の為の方針策定。 平成18年5月25日~平成20年9月30日	(委員:5名) 碓井 照子、今榮 東洋子、 今中 忠行、栗原 和枝、 飯塚 堯介	今中 忠行
環境思想・環境教育分科会	環境教育の現状と改善、本格的展開のための基礎研究と政策提言。 平成18年5月25日~平成20年9月30日	(委員:11名) 加藤 尚武、内堀 基光、 進士 五十八、 大垣 眞一郎、 藁茂 寿太郎 桑野 園子、鷺谷 いづみ、 安部 治、飯田 稔、 岡島 成行、松野 弘	進士 五十八 TEL:03-5477-2428 FAX:03-5477-2625 MAIL: shinji@nodai.ac.jp
環境政策・環境計画分科会	他委員会と連携した環境政策。計画研究の推進とそのための基礎的条件的整備方策提言。 平成18年5月25日~平成20年9月30日	(委員:7名) 淡路 剛久、桑野 園子、 池田 駿介、村上 周三、 入倉 孝次郎、石川 幹子、 木谷 収	石川 幹子
自然環境保全再生分科会	自然再生、生物多様性など生物生存環境研究のレビューと調整。政策提言。 平成18年5月25日~平成20年9月30日		鷺谷 いづみ

2 分科会等名称	目的・活動方針 ・設置期間の目安	分科会等委員	役員と連絡先
環境リスク分科会 (健康・生活科学委員会)	環境リスクマネジメント、コミュニケーション問題など国民の安全安心環境への基礎研究と具体的対策提言。 平成18年5月25日～平成20年9月30日		環境学委員会 岸 玲子
SCOPE分科会 (応用生物学委員会)	平成18年1月23日～平成20年9月30日	(委員:2名) 鷺谷 いつみ、原沢 英夫	応用生物学委員会 原沢 英夫
IGBP・WCRP合同分科会 (地球惑星科学委員会合同)	IGBP、WCRP対応。 平成18年1月23日～平成20年9月30日	(委員:22名) 入倉 孝次郎、小池 勲夫、竹内 邦良、中静 透、林田 佐智子、植松 光夫、占部 城太郎、大畑 哲夫、河宮 未知生、岸 道郎、小池 真、甲山 隆司、齋藤 宏明、齋藤 文紀、多田 隆治、時岡 達志、松野 太郎、松本 淳、三村 信男、八木 一行、安成 哲三、山形 与志樹	環境学委員会 委員長 入倉孝次郎 副委員長 小池 勲夫 幹事 甲山隆司 幹事 安成 哲三
MAHASRI(モンスーンアジア水文気候研究計画)小委員会 (地球惑星科学委員会)	モンスーンアジア水文気候研究計画に対応。 平成18年6月22日～平成20年9月30日	(委員:24名)	環境学委員会 委員長 松本淳 副委員長 里村雄彦
IHDP分科会 (地域研究委員会)	平成18年1月23日～平成20年9月30日	(委員:4名) 氷見山 幸夫、熊田 禎宣、碓井 照子、廣松 毅	地域研究委員会 委員長 熊田 禎宣 副委員長 碓井 照子
今後の分科会設置方針等	必要に応じて考えるが、マンパワーもあり、又会議運営上の限界もあり、できるだけコンパクトかつパワフルにすすめたい。		
当面予定している具体的活動	各分科会に連携会員をお願いし、体制整備を図り、所期の目的に向け、研究会・シンポジウムなどをすすめる		

日本学術会議第三部 分野別委員会の組織と活動ファイル

(2006年7月26日現在)

1 分野別委員会名	数学委員会		
分野の活動方針	国立大学独立法人化などの影響で、数学研究の研究条件は大きく変化している。統計学は社会への影響も大きい研究領域であるにもかかわらず、学術会議での不安定な状況におかれている。数学教育にもいても学力の低下など、早急な対策が望まれる課題が多い。これらに対処するため3分科会を設け運営する。		
委員会の組織方針 ・基本的役割	数学委員会は所属を希望する(連携)会員を受け入れ数学全般にわたる議論の場として設定する。又数学委員会を数理科学委員会と改称することを考えている。		
委員会委員	(委員:16名) 柏原 正樹、武市 正人、深谷 賢治、矢川 元基、飯高 茂、 石井 志保子、儀我 美一、楠岡 成雄、竹村 彰通、藤井 斉亮、 宮岡 礼子、北川 源四郎、萩原 一郎、上野 健爾、鈴木 貴、 森田 康夫	(役員と連絡先) 委員長:深谷 賢治	
分科会の設置方針 ・基本的役割	上記の目標に沿って3分科会を置き運営する。		
2 分科会等名称	目的・活動方針 ・設置期間の目安	分科会等委員	役員と連絡先
数学分科会	数学は、現代文明を成立させている諸科学の基礎となっている。多方面に及ぶ数学の諸分野の現状を把握し、多くの分野の総合的交流をはかり、今後の発展に必要な諸方策を検討する。	(委員:8名) 柏原 正樹、矢川 元基、 深谷 賢治、楠岡 成雄、 儀我 美一、宮岡 礼子、 石井 志保子、萩原 一郎	
	平成18年4月10日～平成20年9月30日		
数理統計学委員会	統計学は諸学にまたがる広い学問領域でありその社会的影響も大きい。このような統計学について学術会議の中で議論される場が必要であり、統計学全般をカバーする分野別委員会、または複数の分野別委員会にまたがる分科会の設置が切に望まれる。本分科会ではその準備を行う。	(委員:6名) 竹村 彰通、北川 源四郎、 楠岡 成雄、広津 千尋、 小西 貞則、椿 広計	
	平成18年4月10日～平成20年3月31日		
数学教育分科会	現代日本の教育は、少子化の進行、若者の学力低下と理科離れなどにより非常に大変な状況にある。本分科会では、数学教育を研究する立場と、数学を研究する立場の(連携)会員が、数学教育に関わる課題の解決に向けて活動する。	(委員:5名) 深谷 賢治、飯高 茂、 藤井 斉亮、市川 伸一、 森田 康夫	
	平成18年4月10日～平成20年9月30日		

今後の 分科会設置方針等	特になし。
当面予定している 具体的活動	今年度8月に開催される国際数学者連合総会、国際数学者会議に代表者を派遣し、その運営に協力する。

日本学術会議第三部 分野別委員会の組織と活動ファイル

(2006年7月26日現在)

1 分野別委員会名		物理学委員会	
分野の活動方針	物理学分野における「科学政策の提言」と「社会への働きかけ」を重要なミッションとする。前者の科学政策の提言は、3つの常設分科会(物性物理学・一般物理学、素粒子物理学・原子核物理学、天文学・宇宙物理学)においてまとめ、後者の社会への働きかけは、物理学委員会においてまとめる。		
委員会の組織方針 ・基本的役割	物理学委員会は、所属を希望する会員および連携会員を受け入れるが、10-20名規模で機動的な運営を可能とする会議(仮に運営会議と呼ぶ)と全会員を対象とした会議(仮に全体会議と呼ぶ)との2層構造とせざるをえないと考えている。全体会議を物理学委員会するか、逆に運営会議を物理学委員会とするかに関しては、もっか議論中。		
委員会委員	(委員:26名) 永宮 正治、伊藤 早苗、十倉 好紀、柳田 敏雄、海部 宣男、北澤 宏一、後藤 俊夫、榊 裕之、佐藤 勝彦、三田 一郎、高原 淳、外村 彰、永原 裕子、潮田 資勝、秋光 純、池内了、伊藤 公孝、岡村 定矩、川合 光、酒井 英行、佐藤 文隆、鈴木 厚人、土井 正男、和達 三樹、井上 一、飯島 澄男	(役員と連絡先) 委員長:永宮正治(J-PARC) Tel: 029-864-5678 E-Mail: shoji.nagamiya@kek.jp 住所:305-0801 つくば市大穂1-1 KEK、J-PARCセンター	
分科会の設置方針 ・基本的役割	物理学の中でも、研究方法や研究目的の異なる分野を大別して3つに分け、3つの常設分科会を設置した。さらに、国際対応として2つの常設分科会を設けた。さらに、約1年から1年半の期限を設けて、他の分野別委員会と連携をとりながら二つの分科会を立ち上げた。		
2 分科会等名称	目的・活動方針 ・設置期間の目安	分科会等委員	役員と連絡先
物性物理学・一般物理学分科会	物質や場の存在形態と発展を対象とする基礎科学研究に関し、大型プロジェクトから個人型研究までもを包含する研究や体制のあり方を分析し、政策立案・提言等に資することを目的とする。国際性・教育・人材育成や社会へのアウトリーチの視野も重視。	(委員:10名) 伊藤 早苗、十倉 好紀、外村 彰、榊 裕之、秋光 純、飯島 澄男、伊藤 公孝、潮田 資勝、土井 正男、和達 三樹	伊藤早苗(当面の世話役) 九州大学・教授 Tel: 092-583-7721 E-mail: s-iitoh@riam.kyushu-u.ac.jp
	平成18年4月24日～平成20年9月30日		
素粒子物理学・原子核物理学分科会	本分野の研究における大型化の現状を直視し、厳しい分析と注意深いプランニングを検討。また、国際的動向を分析。また、コミュニティとも連携をはかりながら、本分野の科学の進め方に関する提言を行う。	(委員:5名) 三田 一郎、永宮 正治、川合 光、酒井 英行、鈴木 厚人	永宮正治(当面の世話役) J-PARCセンター・センター長 Tel: 029-864-5678 E-mail: shoji.nagamiya@kek.jp
	平成18年4月24日～平成20年9月30日		

2 分科会等名称	目的・活動方針 ・設置期間の目安	分科会等委員	役員と連絡先
天文学・宇宙物理学分科会	天文学・宇宙物理学分野における研究者の英知を集め、分野コミュニティや物理学分野の広範な分野の研究者と連携しつつ、天文学・宇宙物理学・関連分野の研究のわが国における長期的発展をはかる。 平成18年4月24日～平成20年9月30日	(委員:6名) 海部 宣男、佐藤 勝彦、永原 裕子、井上 一、池内 了、岡村 定矩	海部宣男(当面の世話役) 国立天文台・名誉教授 Tel: 0426-75-5150 E-mail: Kaifunorio@aol.com
科学・技術の発展のための知覚情報取得技術の強化に関する検討分科会 (基礎生物学委員会・化学委員会・総合工学委員会・材料工学委員会)	広い分野における知覚情報貢献度の解析を行い、各種情報収集機器の有効性の評価や内外での優劣の解析を行う。そして、知覚情報収集機器の優位確立の方策の検討と提言を行う。 平成18年5月25日～平成19年12月31日	(委員:13名) 外村 彰、岸 輝雄、北澤 宏一、十倉 好紀、柳田 敏雄、黒岩 常祥、二瓶 好正、藤吉 好則、小川 誠二、飯島 澄男、市野瀬 英喜、橋詰 富博、難波 啓一	物理学委員会 外村彰(当面の世話役) 日立製作所・フェロー Tel: 049-296-6111 E-mail: tonomura@harl.hitachi.co.jp
基礎科学の大型計画のあり方と推進方策検討分科会 (地球惑星科学委員会・化学委員会・総合工学委員会・基礎生物学委員会・応用生物学委員会)	わが国における基礎科学の大型計画のあり方、透明性の高い科学評価の体制を含む推進方策についての実現可能な具体策を提起する。そのために、広く基礎科学の代表的研究者有識者による集中的検討を行う。 平成18年5月25日～平成19年6月30日	(委員:12名) 海部 宣男、村山 祐司、柳田 敏雄、柳田 充弘、平 朝彦、永原 裕子、永宮 正治、潮田 資勝、尾浦 憲治郎、茅 幸二、鯉沼 秀臣、鈴木 洋一郎	物理学委員会 海部宣男(当面の世話役) 国立天文台・名誉教授 Tel: 0426-75-5150 E-mail: Kaifunorio@aol.com
IUPAP分科会 (総合工学委員会)	物理学および応用物理学における国際機関として最も大きな学術連合。日本から約20名の委員や役員を各分科会に送り、国際会議の開催援助に始まり、広く物理学の進め方を議論する。潮田氏は次期会長。 平成18年1月23日～平成20年9月30日	(委員:20名) 榊 裕之、伊藤 早苗、桑野 園子、潮田 資勝、酒井 英行、大苗 敦、西森 秀稔、鈴木 洋一郎、河野 公俊、伏見 譲、前川 禎通、藤井 保彦、山中 卓、黒川 真一、川勝 博、山崎 泰規、植田 憲一、小嶋 泉、佐々木 節、岡部 豊	物理学委員会 潮田資勝 北陸先端科学技術大学院大学・学長 Tel: 0761-51-1001 E-mail: president@jaist.ac.jp
IAU分科会	天文学における国際連合。天文学における国際的活動を議論する。対応としては、天文学・宇宙物理学分科会の内部で対応。 平成18年1月23日～平成20年9月30日	(委員:4名) 海部 宣男、福島 登志夫、佐藤 勝彦、奥田 浩之	天文学・宇宙物理学分科会 海部宣男 国立天文台・名誉教授 Tel: 0426-75-5150 E-mail: Kaifunorio@aol.com
今後の分科会設置方針等	現在、ほぼすべての分科会が結成されたので、物理学委員会において特別または緊急の分科会提案がない限り、これ以上増やすことは考えていない。物理学委員会内部の運営会議を分科会として発足させるかどうかについては、今後議論する。		

2 分科会等名称	目的・活動方針 ・設置期間の目安	分科会等委員	役員と連絡先
当面予定している 具体的活動	<p>連携会員の選考がすみ次第、3つの常設分科会の本格的活動をはじめます。 期限付きの分科会活動は、早急にはじめます。例えば、基礎科学の大型計画のあり方と推進 方策検討分科会は7月20日に第1回分科会が開催される。</p>		

日本学術会議第三部 分野別委員会の組織と活動方針

(

1 分野別委員会名	地球惑星科学委員会	
分野の活動方針	(1) 地球惑星科学の今後のあり方に関する提言をまとめる, (2) 社会の在り方を検討する, (3) 国際社会との連携を積極的に推進する, (4) 研究・教育の振興のため, 地球惑星科学連合など研究者コミュニティ	
委員会の組織方針 ・基本的役割	地球惑星科学委員会は, 会員, 分科会の代表により構成される。分科会において活動方針の具体化をはかる。委員会は分科会のりまとめをおこなう。	
委員会委員	(委員:7名) 入倉 孝次郎、永原 裕子、岡部 篤行、海部 宣男、平 朝彦、河野 長、碓井 照子	
分科会の設置方針 ・基本的役割	方針 (1),(2),(4) の実行は, 地球・惑星圏分科会, 地球・人間圏分科会等により構成する。それぞれの委員会は会員と連携会員により構成する。方針 (3) の分科会及びその中に適宜小委員会を設ける。分科会は会員, 連携会員により構成する。	
2 分科会等名称	目的・活動方針 ・設置期間	分科会等委員
地球・惑星圏分科会	地球は多くのサブシステムが非線形な結合をし, さらに太陽系という巨大システムの一部をなし, ささまざまな時間, 空間スケールの変動がおきている。このシステムの包括的理解のため, 新しい地球惑星科学のあり方を考える。また, 学界, 教育のあり方, 研究成果の社会還元の方法をなど検討する。	(委員:6名) 永原 裕子、河野 長 大谷 栄治、木村 学 久城 育夫、西田 篤弘
	平成18年4月10日～平成20年9月30日	
地球・人間圏分科会	地球の活動と人間の活動の相互作用が引き起こす地球的な現象や社会的問題に関して, 地球科学のあり方, 社会的提言, 関連研究コミュニティとの連携について検討する。	(委員:13名) 岡部 篤行、入倉 孝次郎 平 朝彦、碓井 照子 今脇 資郎、岡田 尚武 住 明正、氷見山 幸夫 森田 喬、山形 俊男 浅見 泰司、村山 祐司、 竹内 良邦
	平成18年4月10日～平成20年9月30日	

2 分科会等名称	目的・活動方針 ・設置期間	分科会等委員
国際対応分科会	地球惑星科学に関連する国際団体との対応を総合的に推進する。分科会に属する小委員会の間の連絡・調整を行う。 平成18年1月23日～平成20年9月30日	(委員:28名) 河野 長、平 朝彦 永原 裕子、岡部 篤行、 海部 宣男、入倉 孝次郎、 碓井 照子、今脇 資郎、 森田 喬、水見山 幸夫、 谷口 旭、田邊 裕、 福地 光男、小杉 健郎、 松本 良、奥村 晃史、 末広 潔、熊木 洋太、 山中 高光、津田 敏隆、 野上 道男、藤井 良一、 波田 重熙、在田 一則、 湯元 清文、大谷 栄治、 神田 啓史、竹内 邦良
SCOR(海洋研究科学委員会)小委員会	平成18年6月22日～平成20年9月30日	(委員:23名)
IUGS(国際地質科学連合)小委員会	平成18年5月25日～平成20年9月30日	(委員:7名)
IMA(国際鉱物学連合)小委員会	平成18年6月22日～平成20年9月30日	(委員:22名)
INQUA(国際第四紀学連合)小委員会	平成18年6月22日～平成20年9月30日	(委員:8名)
IGU(国際地理学連合)小委員会	IGU日本委員会(JNC)の役割を担い、地理関連学協会・研究者がIGUと連携して国際的に緊要度の高い研究・教育上の課題に取り組み、他分野との協働と社会貢献を推進するのをリードし支援する。 平成18年4月10日～平成20年9月30日	(委員:17名)
ICA(国際地図学協会)小委員会	ICAの活動への協力、支援、助言、わが国からの参加の促進を図り、国際的連携性のもとに空間情報化社会の発展、人類的な課題解決の支援、地図学の振興、および他分野との協働、を推進する。 平成18年4月12日～平成20年9月30日	(委員:6名)

2 分科会等名称	目的・活動方針 ・設置期間	分科会等委員
IUGG(国際測地学及び地球物理学連合)小委員会	平成18年5月25日～平成20年9月30日	(委員:9名)
SCOSTEP(太陽地球系物理学・科学委員会)小委員会	平成18年6月22日～平成20年9月30日	(委員:9名)
COSPAR(宇宙空間研究委員会)小委員会	平成18年6月22日～平成20年9月30日	(委員:15名)
SCAR(南極研究科学委員会)小委員会	平成18年6月22日～平成20年9月30日	(委員:13名)
IASC(国際北極科学委員会)小委員会	平成18年6月22日～平成20年9月30日	(委員:14名)
IGCP(地質科学国際研究計画)小委員会	平成18年4月10日～平成20年9月30日	(委員:12名)
ILP(国際リソスフェア計画)小委員会	平成18年6月22日～平成20年9月30日	(委員:8名)
STPP(太陽地球系物理学国際共同計画)小委員会	平成18年6月22日～平成20年9月30日	(委員:10名)
国際極年2007-2008対応小委員会	平成18年6月22日～平成20年9月30日	(委員:14名)
IYPE(国際惑星地球年)小委員会	平成18年7月26日～平成20年9月30日	(委員:7名)
IGBP・WCRP合同分科会 (環境学委員会)	IGBP、WCRP対応。 平成18年1月23日～平成20年9月30日	(委員:22名) 入倉 孝次郎、小池 勲夫、 竹内 邦良、中静 透、 林田 佐智子、植松 光夫、 占部 城太郎、大畑 哲夫、 河宮 未知生、岸 道郎、 小池 真、甲山 隆司、 齋藤 宏明、齋藤 文紀、 多田 隆治、時岡 達志、 松野 太郎、松本 淳、 三村 信男、八木 一行、 安成 哲三、山形 与志樹

2 分科会等名称	目的・活動方針 ・設置期間	分科会等委員
MAHASRI(モンスーンアジア水文気候研究計画)小委員会	平成18年6月22日～平成20年9月30日	(委員:24名)
今後の分科会設置方針等	国際対応分科会の下の小委員会は活動の必要性が生じた場合、順	
当面予定している具体的活動	(1) 地球惑星科学委員会を月1回程度開催する, (2) 地球・惑星圏分科会を6月中に開催し, 以後適宜開催する, (3)国内研究者コミュニウため, 地球惑星科学連合との懇談を6月14日にもつ, (4) 国際体温する	

イル

(2006年7月26日現在)

への貢献・アウトリーチ
4) 地球惑星科学の研
-との連携を進める

野の活動方針にそって、
提案をうけて、提言のと

(役員と連絡先)
委員長: 入倉孝次郎
(irikura@geor.or.jp)
幹事: 永原裕子
(hiroko@eps.s.u-
tokyo.ac.jp)

会の2つの分科会で行
乃遂行のため、国際対応
会員、特任連携会員によ

役員と連絡先

委員長 永原裕子
hiroko@eps.s.u-
tokyo.ac.jp
幹事 大谷栄治
ohtani@mail.tains.tohoku
.ac.jp

委員長 岡部篤行
atsu@ua.t.u-tokyo.ac.jp
幹事 氷見山幸夫
himiyama@asa.hokkyodai
.ac.jp

役員と連絡先

委員長 河野長
副委員長 平朝彦

世話人 谷口旭

委員長 松本良
幹事 佃栄吉

世話人 大谷栄治

世話人 碓井照子

委員長 岡部篤行
atsu@ua.t.u-tokyo.ac.jp
幹事 氷見山幸夫
himiyama@asa.hokkyodai
.ac.jp

委員長 森田喬
(法政大学)
morita@k.hosei.ac.jp
TEL:0423-87-6270

役員と連絡先

世話人 今脇資郎

世話人 津田敏隆

世話人 小杉健郎

世話人 福地光男

世話人 神田啓史

委員長 土隆一
幹事 波田重熙

世話人 在田一則

世話人 湯元清文

世話人 佐藤夏雄

世話人 大矢暁

環境学委員会

委員長 入倉孝次郎
副委員長 小池 勲夫
幹事 甲山隆司
幹事 安成 哲三

役員と連絡先

環境学委員会

委員長 松本淳
副委員長 里村雄彦

目次設置する

分科会, 地球・人間圏分
隊との連携を進める
分科会を年複数回開催

日本学術会議第三部 分野別委員会の組織と活動ファイル

(2006年7月26日現在)

1 分野別委員会名	情報学委員会		
分野の活動方針	学術分野が社会に対して、何をすべきか、何ができるのかを基本に、主要課題について、アウトカムの明確な活動を行う。		
委員会の組織方針 ・基本的役割	情報学委員会をステアリング委員会とし、情報学推進分科会を拡大委員会の位置付けで全体議論の場として設定。		
委員会委員	(委員:19名) 坂内 正夫、村岡 洋一、土井 美和子、田中 英彦、青山 友紀、 生駒 俊明、今井 秀樹、岸浪 建史、益田 隆司、村井 純、 土居 範久、岡部 篤行、武市 正人、坂村 健、宮原 秀夫、 安西 祐一郎、齊藤 成也、苧阪 直行、碓井 照子	(役員と連絡先) 坂内正夫(委員長) sakauchi@nii.ac.jp 村岡洋一(副委員長) muraoka@waseda.jp 土井美和子(幹事) miwako.doi@toshiba.co.jp	
分科会の設置方針 ・基本的役割	重要なテーマに限定した分科会を設立し、随時議論の進行を(拡大)委員会に開示し、狭い議論となることを回避する。		
2 分科会等名称	目的・活動方針 ・設置期間の目安	分科会等委員	役員と連絡先
情報学推進分科会	拡大情報学委員会としての位置付け (社会との関わり、融合分野の形成等)	(委員:44名) 碓井 照子、苧阪 直行 齊藤 成也、青山 友紀 安西 祐一郎、生駒 俊明 今井 秀樹、岡部 篤行 岸浪 建史、坂内 正夫 坂村 健、武市 正人 田中 英彦、土居 範久 土井 美和子、益田 隆司 宮原 秀夫、村井 純 村岡 洋一、阿草 清滋 有川 節夫、石塚 満 市川 晴久、岩田 修一 牛島 和夫、金出 武雄 北川 源四郎、喜連川 優 國井 秀子、下條 真司 田中 弘美、田中 讓 東倉 洋一、徳田 英幸 所 眞理雄、鳥居 宏次 長尾 真、西尾 章治郎 林 弘、原島 博 本位田 真一、松山 隆司 村田 正幸、米澤 明憲	(当面情報学委員会と一致させる) 坂内正夫(委員長) sakauchi@nii.ac.jp 村岡洋一(副委員長) muraoka@waseda.jp 土井美和子(幹事) miwako.doi@toshiba.co.jp
ユビキタス空間情報社会基盤分科会	社会的影響の大きいユビキタスコンピューティングに関わる社会基盤のあり方、負の側面の考慮を入れた検討。	(委員:5名) 碓井 照子、岡部 篤行 坂村 健、村井 純 森田 喬	坂村 健 (ken@sakamura-lab.org) 岡部篤行 (atsu@ua.t.u-tokyo.ac.jp)
平成18年4月28日～平成20年9月30日			

2 分科会等名称	目的・活動方針 ・設置期間の目安	分科会等委員	役員と連絡先
情報ネットワーク社会基盤分科会	<p>新たなネットワーク技術と社会とのあり方を検討。</p> <p>平成18年5月25日～平成20年9月30日</p>	<p>(委員:12名) 青山 友紀、今井 秀樹、 土井 美和子、宮原 秀夫、 村井 純、市川 晴久、 井上 友二、下条 真司、 徳田 秀幸、所 眞理雄、 本位田 真一、村田 正幸</p>	<p>青山友紀 (aoyama@mlab.k.u- tokyo.ac.jp)</p>
バイオインフォマティクス分科会 (基礎生物学委員会・応用生物学委員会・農学基礎委員会・基礎医学委員会・薬学委員会)	<p>6つの委員会を横断したバイオインフォマティクス分野への社会提言等を目指す。</p> <p>平成18年5月25日～平成19年12月31日</p>	<p>(委員:7名) 齊藤 成也、中西 友子 榑 佳之、生駒 俊明 坂内 正夫、土居 範久 柴崎 正勝</p>	<p>応用生物学委員会 斎藤成也 (nsaitou@genes.nig.ac.jp)</p>
今後の分科会設置方針等	<p>拡大情報学委員会の議論を経て、サイエンスデータベース、初中教育等、限定されたテーマについて、あと数分科会設置の予定。</p>		
当面予定している具体的活動	<p>拡大情報学委員会での課題抽出ブレインストーミング。</p>		

日本学術会議第三部 分野別委員会の組織と活動ファイル

(2006年7月26日現在)

1 分野別委員会名	化学委員会		
分野の活動方針	基礎化学及び応用化学等の化学関連分野で学術を推進するための産学官連携の新たなパラダイムを構築すると共に、学術研究の一層の推進、若手の育成、男女共同参画、環境安全、教育、社会連携などに関して具体的な提案をできるように討論していく。化学分野の国際的な研究教育協力を支援する。		
委員会の組織方針 ・基本的役割	化学委員会は、委員長以外に役員として、副委員長1人、幹事2人を置き、機動性の高い執行部の役割を果す。化学委員会に当面は3つの分科会を設置する。企画分科会は、委員会全体の具体的な活動方針を決める。IUPAC分科会とIUCr分科会は、各々国際研究協力事業のIUPAC及びIUCrの活動に関して具体的な決定を行う。		
委員会委員	<p>(委員:34名)</p> <p>岩澤 康裕、北川 禎三、新海 征治、玉尾 皓平、澤本 光男、栗原 和枝、高原 淳、今榮 東洋子、柏 典夫、永原 裕子、藤嶋 昭、野依 良治、相澤 益男、梶山 千里、石谷 炯、大橋 裕二、黒田 玲子、岩村 秀、茅 幸二、村井 眞二、岡本 佳男、岡畑 恵雄、田中 栄司、増原 宏、鯉沼 秀臣、中村 栄一、橋本 和仁、入江 正浩、西出 宏之、相田 卓三、西村 紳一郎、二瓶 好正、小池 康博、架谷 昌信</p>	<p>(役員と連絡先)</p> <p>委員長 岩澤康裕(東大理) iwasawa@chem.s.u-tokyo.ac.jp 副委員長 北川禎三(豊田理研) teizo@ims.ac.jp 幹事 玉尾皓平(理研) tamao@riken.jp 幹事 新海征治(九大工) sejitem@mbox.nc.kyushu-u.ac.jp</p>	
分科会の設置方針 ・基本的役割	化学委員会は大人数であり、委員会を毎々開催する事が不可能であるので、化学委員会としての意思決定を規定に従って迅速に行うため、企画分科会を設置する。IUPACとIUCrという国際協力事業に対しては、各々に分科会を設置し、その会の規程にしたがって諸活動の内容を決める。この他に課題をもつ分科会をいくつか発足させ、計画の実行を担う予定である。		
2 分科会等名称	目的・活動方針 ・設置期間の目安	分科会等委員	役員と連絡先
化学企画分科会	<p>化学委員会は大人数で全体会議の開催が困難であるため、諸活動の具体的な決定を迅速に行うために設置。本分科会は会員と若干名の連携会員で構成し、臨機応変に会を開催できる体制をとる。本分科会の決定を化学委員会の決定とみなし、化学委員会が活動を機動性に富むものにする。</p> <p>平成18年4月12日～平成19年3月31日</p>	<p>(委員:16名)</p> <p>今榮 東洋子、柏 典夫、岩澤 康裕、北川 禎三、栗原 和枝、澤本 光男、新海 征治、高原 淳、玉尾 皓平、野依 良治、藤嶋 昭、岩村 秀、岡本 佳男、黒田 玲子、</p>	<p>委員長 岩澤康裕(東大理) iwasawa@chem.s.u-tokyo.ac.jp 03-5841-4363</p>
IUPAC分科会	<p>IUPACの活動を支援すると共に、IUPAC主催の国際会議、各分科会委員会への派遣者等、具体的な活動の詳細を決定する。またIUPACに対する日本の長期的戦略を決める。</p> <p>平成18年1月23日～平成20年9月30日</p>	<p>(委員:13名)</p> <p>北川 禎三、澤本 光男、岩澤 康裕、新海 征治、玉尾 皓平、柴崎 正勝、石谷 炯、岩村 秀、入江 正浩、磯部 稔、渡會 仁、中林 宣男、北山 辰樹</p>	<p>委員長 北川禎三(豊田理研) teizo@ims.ac.jp 0564-59-5225</p>

2 分科会等名称	目的・活動方針 ・設置期間の目安	分科会等委員	役員と連絡先
IUCr分科会	IUCr主催の国際会議、各分科会委員会への派遣者等、具体的な活動の詳細を決定する。IUCrに対する日本の長期的活動方針案を決める。 平成18年1月23日～平成20年9月30日	(委員:6名) 栗原 和枝、高原 淳 岩澤 康裕、大橋 裕二 甲斐 泰、佐々木 聡	委員長 栗原和枝(東北大多元研) kurihara@tagen.tohoku.ac.jp 022-217-5673
科学・技術の発展のための知覚情報取得技術の強化に関する検討分科会 (基礎生物学委員会・物理学委員会・総合工学委員会・材料工学委員会)	広い分野における知覚情報貢献度の解析を行い、各種情報収集機器の有効性の評価や内外での優劣の解析を行う。そして、知覚情報収集機器の優位確立の方策の検討と提言を行う。 平成18年5月25日～平成19年12月31日	(委員:13名) 外村 彰、岸 輝雄、 北澤 宏一、十倉 好紀、 柳田 敏雄、黒岩 常祥、 二瓶 好正、藤好 好則、 小川 誠二、飯島 澄男、 市野瀬 英喜、 橋詰 富博、難波 啓一	物理学委員会 世話役 外村彰(日立製作所) tonomura@harl.hitachi.co.jp TEL:049-296-6111
基礎科学の大型計画のあり方と推進方策検討分科会 (基礎生物学委員会・応用生物学委員会・物理学委員会・地球惑星科学委員会・総合工学委員会)	わが国における基礎科学の大型計画のあり方、透明性の高い科学評価の体制を含む推進方策についての実現可能な具体策を提起する。そのために、広く基礎科学の代表的研究者有識者による集中的検討を行う。 平成18年5月25日～平成19年6月30日	(委員:12名) 海部 宣男、村山 祐司、 柳田 敏雄、柳田 充弘、 平 朝彦、永原 裕子、 永宮 正治、潮田 資勝、 尾浦 憲治郎、茅 幸二、 鯉沼 秀臣、鈴木 洋一郎	物理学委員会 委員長 海部宣男(国立天文台・名誉教授) Kaifunorio@aol.com TEL:0426-75-5150
今後の分科会設置方針等			
当面予定している具体的活動			

日本学術会議第三部 分野別委員会の組織と活動ファイル

(2006年7月26日現在)

1 分野別委員会名	総合工学委員会		
分野の活動方針	学際的・複合的な工学分野(応用物理、計測制御、エネルギー、資源、船舶、航空宇宙、経営等)、工学全体に跨る横断的な分野、工学と他の理系や文系に跨る分野に関する主要な課題を取り上げて検討し、提言等をまとめていく。		
委員会の組織方針・基本的役割	総合工学委員会は、所属を希望する会員及び連携会員を委員として受け入れる。委員会の運営および活動は、全体会議(年1回開催)、委員会の諸事項を処理する企画分科会(年数回開催)、総合工学分野の諸課題を検討する分科会および小委員会を設置し、推進していく。		
委員会委員	(委員:45名) 後藤 俊夫、矢川 元基、鈴木 篤之、伊藤 早苗、中西 友子、小館 香椎子、岸浪 建史、土井 美和子、林 勇二郎、益田 隆司、柘植 綾夫、小林 敏雄、毛利 衛、北澤 宏一、笠木 伸英、池田 駿介、永宮 正治、山地 憲治、榊 裕之、須賀 唯知、桑野 園子、相澤 清人、芦田 譲、新井 民夫、荒川 泰彦、飯吉 厚夫、尾浦 憲治郎、木村 英紀、小宮山 宏、管村 昇、田島 道夫、田中 耕一、萩原 一郎、松岡 猛、的川 泰宣、吉川 弘之、渡辺 美代子、西尾 茂文、原山 優子、前田 正史、日比谷 孟俊、架谷 昌信、大野 英男、石原 宏、伊藤 公孝	(役員と連絡先) 委員長:後藤俊夫 (中部大学) Tel.:0568-51-8400 e-mail: gotou@isc.chubu.ac.jp	
分科会の設置方針・基本的役割	本委員会は、広い分野を包含するので、次の3種類の分科会を設置して活動を推進する。(1)総合工学の個別的な分野の課題を検討する分科会、(2)工学全体或いは科学技術全体に関する課題を検討する分科会(他の委員会と合同で設置)、(3)国際学術団体対応の分科会。		
2 分科会等名称	目的・活動方針 ・設置期間の目安	分科会等委員	役員と連絡先
応用物理学・工学基盤分科会	科学技術全体の動きを視野に入れつつ、応用物理学および計測制御等の工学基盤分野の強化策と関連する新たな融合分野の創成について検討し、提言等をまとめる。 平成18年4月10日～平成20年9月30日	(委員:12名) 後藤 俊夫、小館 香椎子、榊 裕之、荒川 泰彦、石原 宏、尾浦 憲治郎、大野 英男、木村 英紀、田島 道夫、出口 光一郎、萩原 一郎、渡辺 美代子	委員長:小館香椎子 (日本女子大学) Tel.: 03-5981-3614 e-mail: kkodate@fc.jwu.ac.jp
科学技術イノベーション力強化分科会 (機械工学委員会)	主として、日本の科学技術イノベーション創出構造の問題点の掘り下げと強化策を検討する。今後月1回程度分科会を開催して、来年4月までに提言をまとめる。 平成18年5月1日～平成19年4月30日	(委員:20名) 安西 祐一郎、馬越 佑吉、岸浪 建史、北澤 宏一、柘植 綾夫、後藤 俊夫、梶山 千里、橋本 和仁、原山 優子、細野 秀雄、前田 正史、平野 眞一、白井 克彦、松重 和美、長田 義仁、中村 慶久、中島 尚正、須賀 唯知、玉尾 皓平、鯉沼 秀臣	総合工学委員会 委員長:北澤宏一 (科学技術振興機構) Tel: 048-226-5600 e-mail: kitazawa@jst.go.jp

2 分科会等名称	目的・活動方針 ・設置期間の目安	分科会等委員	役員と連絡先
IFAC分科会 (電気電子工学委員会)	国際自動制御連盟(IFAC)に対応する分科会として設置、IFACに関係する国内外の諸活動をリードする。 平成18年1月23日～平成20年9月30日	(委員:6名) 後藤 俊夫、野口 伸、 橋本 康、木村 英紀、 片山 徹、村瀬 治比古	総合工学委員会 委員長:木村英紀 (理化学研究所)、 Tel.:052-736-5860, e-mail: kimura@bmc.riken.jp
ICO分科会	国際光学委員会(ICO)に対応する分科会として設置、ICOに関係する国内外の諸活動をリードする。 平成18年1月23日～平成20年9月30日	(委員:4名) 小館 香椎子、荒川 泰彦、 岩田 耕一、山口 一郎	委員長:小館香椎子 (日本女子大学)、 Tel.: 03-5981-3614, e-mail: kkodate@fc.jwu.ac.jp
IUPAP分科会 (物理学委員会)	物理学および応用物理学における国際機関として最も大きな学術連合。日本から約20名の委員や役員を各分科会に送り、国際会議の開催援助に始まり、広く物理学の進め方を議論する。潮田氏は次期会長。 平成18年1月23日～平成20年9月30日	(委員:20名) 榊 裕之、伊藤 早苗、 桑野 園子、潮田 資勝、 酒井 英行、大苗 敦、 西森 秀稔、鈴木 洋一郎、 河野 公俊、伏見 譲、 前川 禎通、藤井 保彦、 山中 卓、黒川 真一、 川勝 博、山崎 泰規、 植田 憲一、小嶋 泉、 佐々木 節、岡部 豊	物理学委員会 潮田資勝 北陸先端科学技術大学院 大学・学長 Tel: 0761-51-1001 E-mail: president@jaist.ac.jp
WFEO分科会 (土木工学・建築学委員会)	WFEO関連の活動に対応する。 平成18年1月23日～平成20年9月30日	(委員:6名) 木村 孟、池田 駿介、 大垣 眞一郎、川島 一彦、 石井 弓夫、札野 順、 芦田 譲	土木工学・建築学委員会 幹事 川島一彦(東京工業大学) Tel:03-5734-2922 e-mail: kawasima@cv.titech.ac.jp
科学・技術の発展のための知覚情報取得技術の強化に関する検討分科会 (基礎生物学委員会・物理学委員会・化学委員会・材料工学委員会)	広い分野における知覚情報貢献度の解析を行い、各種情報収集機器の有効性の評価や内外での優劣の解析を行う。そして、知覚情報収集機器の優位確立の方策の検討と提言を行う。 平成18年5月25日～平成19年12月31日	(委員:13名) 外村 彰、岸 輝雄、 北澤 宏一、十倉 好紀、 柳田 敏雄、黒岩 常祥、 二瓶 好正、藤好 好則、 小川 誠二、飯島 澄男、 市野瀬 英喜、 橋詰 富博、難波 啓一	物理学委員会 外村彰(当面の世話役) 日立製作所・フェロー Tel: 049-296-6111 E-mail: tonomura@harl.hitachi.co.jp
基礎科学の大型計画のあり方と推進方策検討分科会 (物理学委員会・地球惑星科学委員会・化学委員会・基礎生物学委員会・応用生物学委員会)	わが国における基礎科学の大型計画のあり方、透明性の高い科学評価の体制を含む推進方策についての実現可能な具体策を提起する。そのために、広く基礎科学の代表的研究者有識者による集中的検討を行う。 平成18年5月25日～平成19年6月30日	(委員:12名) 海部 宣男、村山 祐司、 柳田 敏雄、柳田 充弘、 平 朝彦、永原 裕子、 永宮 正治、潮田 資勝、 尾浦 憲治郎、茅 幸二、 鯉沼 秀臣、鈴木 洋一郎	物理学委員会 海部宣男(当面の世話役) 国立天文台・名誉教授 Tel: 0426-75-5150 E-mail: Kaifunorio@aol.com
今後の分科会設置方針等	(1)本委員会が主体となって設置する分科会として、エネルギー・資源分科会、安全・安心・リスク分科会、フロンティア人工物分科会、(2)他委員会と合同で設置する分科会として、ものづくり技術分科会、横断型・融合型科学技術分科会を検討中。他に企画分科会を設置予定。		

2 分科会等名称	目的・活動方針 ・設置期間の目安	分科会等委員	役員と連絡先
当面予定している 具体的活動	6月13日 科学技術イノベーション力強化分科会開催、6月27日 応用物理学・工学基盤分科会開催、5月29, 30日 原子力総合シンポジウム2006主催、6月30日 FMESシンポジウム主催、7月6, 7日 安全工学シンポジウム2006主催、		

日本学術会議第三部 分野別委員会の組織と活動ファイル

(2006年7月26日現在)

1 分野別委員会名		機械工学委員会	
分野の活動方針	機械工学が人工物の生産と活用・運用を通じて地球社会に多大な影響を与えていることを留意して、サステナビリティやイノベーションなどの社会的な課題に積極的に取り組むとともに、このような長期的、全地球的課題の観点から学問としての機械工学のあり方や発展の方向を検討し、提言する。		
委員会の組織方針 ・基本的役割	本委員会への所属を希望する連携会員は全て委員会委員として参加する。委員会の運営において、定型的で即応性が求められる実務的事項については、会員で構成される幹事会(仮称)が対処する。		
委員会委員	(委員:23名) 中島 尚正、小林 敏雄、笠木 伸英、須賀 唯知、岸浪 建史、 林 勇二郎、柘植 綾夫、矢川 元基、稲崎 一郎、古川 勇二、 阿部 博之、荒木 信幸、井上 博允、大島 まり、大橋 秀雄、 岸本 喜久雄、木村 文彦、佐藤 知正、田中 正人、西尾 茂文、 菱田 公一、森脇 俊道、矢部 彰	中島尚正 e-mail: n-nakajima@aist.go.jp	
分科会の設置方針 ・基本的役割	分野横断的な課題に対して専門知識の融合化や統合化を検討する分科会、イノベーション力の強化を検討する分科会、俯瞰的視点から機械工学のディプリンを検討する分科会等を設置する。		
2 分科会等名称	目的・活動方針 ・設置期間の目安	分科会等委員	役員と連絡先
IUTAM分科会 (土木工学・建築学 委員会)		(委員:11名) 小林 敏雄、池田 駿介、 村上 周三、矢川 元基、 大島 まり、儀我 美一、 和田 章、神部 勉、 上谷 宏二、渡邊 英一、 宮内 敏雄	機械工学委員会 小林敏雄 e-mail: kobaya@jari.or.jp
	平成18年1月23日～平成20年9月30日		
科学技術イノベ ーション力強化分科 会 (総合工学委員会)	わが国の科学技術イノベーションの創出 構造の弱点を掘り下げとその強化策を 主対象に取り組む。科学技術イノベ ーションを社会・経済価値に具現化する仕 組みについても検討する。	(委員:20名) 安西 祐一郎、馬越 佑吉、 岸浪 建史、北澤 宏一、 柘植 綾夫、後藤 俊夫、 梶山 千里、橋本 和仁、 原山 優子、細野 秀雄、 前田 正史、平野 眞一、 白井 克彦、松重 和美、 長田 義仁、中村 慶久、 中島 尚正、須賀 唯知、 玉尾 皓平、鯉沼 秀臣	総合工学委員会 前田正史(東京大学)、 Tel: 03-5452-6001, e-mail: secretar@iis.u- tokyo.ac.jp
	平成18年5月1日～平成19年4月30日		

2 分科会等名称	目的・活動方針 ・設置期間の目安	分科会等委員	役員と連絡先
科学者コミュニティ と知の統合委員会 (課題別委員会として発足)	地の統合と理念と方法、現代諸課題において知の統合がどのような形で要請されているか、知の統合を具体的に推進する科学者コミュニティの役割と活動について審議する。 平成18年3月23日～平成19年3月31日	(委員:14名) 青柳 正規、廣瀬 和子、 中西 友子、廣川 信隆、 岸 輝雄、後藤 俊夫、 小林 敏雄、柘植 綾夫、 土井 美和子、中島 尚正、 矢川 元基、木村 英紀、 藤井 信孝、村上 陽一郎	中島尚正 e-mail: n-nakajima@aist.go.jp
今後の 分科会設置方針等	機械工学のディシプリンを検討する委員会		
当面予定している 具体的活動			

日本学術会議第三部 分野別委員会の組織と活動ファイル

(2006年7月26日現在)

1 分野別委員会名	電気電子工学委員会		
分野の活動方針	激動期にある電気電子工学分野に将来への指針となる「何か」を見つける。		
委員会の組織方針 ・基本的役割	会員、連携会員が総合的に知恵を出し、知的資産の共通化と発信ができる組織にする。		
委員会委員	(委員:12名) 伊賀 健一、原島 文雄、榊 裕之、小舘 香椎子、青山 友紀、 生駒 俊明、今井 秀樹、坂内 正夫、土井 美和子、野口 伸、 坂村 健、田中 英彦	伊賀健一 kiga@jsps.go.jp 03-3263-5044	
分科会の設置方針 ・基本的役割	「あり方」分科会では電気電子工学の本質論を議論し、分野3分科会は当該学術を掌理し社会に対する責任をもつ。		
2 分科会等名称	目的・活動方針 ・設置期間の目安	分科会等委員	役員と連絡先
電気電子工学のあり方検討分科会	電気電子工学分野でこれから何が最重要かを議論しその方向性を探る。	(委員:22名) 青山 友紀、伊賀 健一、 生駒 俊明、今井 秀樹、 小舘 香椎子、坂内 正夫、 榊 裕之、坂村 健、 田中 英彦、土井 美和子、 原島 文雄、荒川 泰彦、 石原 宏、井上 友二、 大野 英男、國分 泰雄、 西 義雄、野田 進、 福田 敏男、藤田 博之、 堀越 佳治、山本 喜久、 尾浦 憲治郎	伊賀健一 Tel: 03-3263-5044 e-mail:kiga@jsps.go.jp
	平成18年4月10日～平成20年9月30日		
制御・パワー工学分科会	電気工学、パワーエレクトロニクス、制御工学に関する学術について掌理する。	(委員:4名) 原島 文雄、野口 伸、 福田 敏男、藤田 博之	原島文雄
	平成18年5月12日～平成20年9月30日		
デバイス・電子機器工学分科会	電子デバイス、光デバイス、電気機器などエレクトロニクスに関する学術について掌理する。	(委員:10名) 小舘 香椎子、生駒 俊明、 榊 裕之、荒川 泰彦、 石原 宏、大野 英男、 西 義雄、野田 進、 堀越 佳治、尾浦 憲治郎	榊裕之
	平成18年5月12日～平成20年9月30日		
通信・電子システム分科会	通信、電波、電子システムなどシステム系の学術について掌理する。	(委員:10名) 伊賀 健一、青山 友紀、 今井 秀樹、坂内 正夫、 土井 美和子、坂村 健、 田中 英彦、井上 友二、 國分 泰雄、山本 喜久	青山友紀
	平成18年5月12日～平成20年9月30日		

2 分科会等名称	目的・活動方針 ・設置期間の目安	分科会等委員	役員と連絡先
URSI分科会	国際電波連合(ULSI)の活動に参加し、国際的協調に寄与する。 平成18年1月23日～平成20年9月30日	(委員:15名) 青山 友紀、今井 秀樹、 松本 紘、大村 善治、 多氣 昌生、小林 一哉、 細川 瑞彦、安藤 真、 大平 孝、井筒 雅之、 藤原 修、山口 芳雄、 丸山 隆、井上 允、 岡田 敏美	松本 紘
IFAC分科会 (総合工学委員会)	国際自動制御連盟(IFAC)に対応する分科会として設置、IFACに関係する国内外の諸活動をリードする。 平成18年1月23日～平成20年9月30日	(委員:6名) 後藤 俊夫、野口 伸、 橋本 康、木村 英紀、 片山 徹、村瀬 治比古	総合工学委員会 木村英紀 (理化学研究所)、 Tel.:052-736-5860, e-mail: kimura@bmc.riken.jp
今後の分科会設置方針等	あり方検討分科会の成果をもとに、重要テーマについて速やかにソリューションを得るための分科会を設置する。		
当面予定している具体的活動	電気電子工学のあり方について提言、公開シンポジウム、web化、出版を行なう。		

日本学術会議第三部 分野別委員会の組織と活動ファイル

(2006年7月26日現在)

1 分野別委員会名		土木工学・建築学委員会	
分野の活動方針	近年、地球環境問題の深刻化、IT社会の出現、経済・産業構造の変化、人口減少社会の到来、日本社会の成熟化など、我が国の社会資本整備や国土計画の見直しを迫る各種の事態が発生している。このような背景のもとに、委員会運営の基本として、①防災、②環境、③社会政策、④教育、を主要分野と位置付けて活動を行う。		
委員会の組織方針・基本的役割	本分野別委員会は、横断的、総合的視点から委員会を組織し、21世紀における我が国の住宅・公園・都市、通信インフラ、交通インフラなどの社会資産や国土計画のあり方、また日本モデルを参考にした近未来のアジアの社会資本整備のあり方等に関して調査研究を行い、広く一般社会や行政団体などに対して提言を行う。		
委員会委員	(委員26名) 村上 周三、濱田 政則、池田 駿介、仙田 満、進士 五十八、石川 幹子、坂村 健、大垣 眞一郎、木村 孟、今村 文彦、岡村 甫、加藤 信介、嘉門 雅史、川島 一彦、日下部 治、陣内 秀信、竹内 邦良、友澤 史紀、林 良嗣、藤野 陽三、松尾 友矩、和田 章、芦田 譲、浅見 泰司、高草木 明、堀 宗朗	(役員と連絡先) 委員長 村上周三(慶應義塾大学) Tel:045-566-1777 e-mail: murakami@sd.keio.ac.jp	
分科会の設置方針・基本的役割	主要4分野について、以下の方針で進める。①防災:既に承認されている課題別委員会「地球規模の自然災害に対して安全・安心な社会基盤の構築検討委員会」の活動として進める。②環境:分科会「国土と環境」の新設を申請し、この委員会の下で進める。③社会政策:分科会「建設と社会」の新設を申請し、この委員会の下で進める。④教育:既に承認されている課題別委員会「子供を元気にする環境づくり戦略政策検討委員会」の活動として進める		
2 分科会等名称	目的・活動方針・設置期間の目安	分科会等委員	役員と連絡先
学際連携分科会	土木工学・建築学に関係のある学術・技術の学際間連携や学協会間の連携を図ること、また、土木工学・建築学委員会が担当する各種シンポジウムの企画・運営・連絡を行うことを目的として活動を行う。 平成18年5月25日～平成20年9月30日	(委員:4名) 村上 周三、濱田 政則、林 良嗣、藤野 陽三	世話役 濱田政則(早稲田大学) Tel:03-5286-3406 e-mail: hamada@waseda.jp
建設と社会分科会	環境問題の深刻化、経済・産業構造の変化、社会の成熟化等を背景に、新たな社会資産整備のあり方が問われている。この問題について、本分科会において体系的・学際的視点から検討し、広く一般社会や行政、学術団体等に建議する。 平成18年4月10日～平成20年9月30日	(委員: 名)	委員長 村上周三(慶應義塾大学) Tel:045-566-1777 e-mail: murakami@sd.keio.ac.jp

2 分科会等名称	目的・活動方針 ・設置期間の目安	分科会等委員	役員と連絡先
国土と環境分科会	<p>環境と共生する国土のあり方が問われている。我が国の建設界はパラダイム変換が求められている。本分科会では少子化と高齢化が同時進行する中で、国土と環境のあるべき方向性とそれを支える学術・技術のあり方について検討する。</p> <p>平成18年4月10日～平成20年9月30日</p>	<p>(委員:10名) 池田 駿介、仙田 満、 進士 五十八、石川 幹子、 真木 太一、嘉門 雅史、 日下部 治、林 良嗣、 松尾 友矩、加藤 信介</p>	<p>世話役 池田駿介(東京工業大学) Tel:03-5734-2588 e-mail: siked@fluid.cv.titech.ac.jp</p>
WFEO分科会 (総合工学委員会)	<p>WFEO関連の活動に対応する。</p> <p>平成18年1月23日～平成20年9月30日</p>	<p>(委員6名) 木村 孟、池田 駿介、 大垣 眞一郎、川島 一彦、 石井 弓夫、札野 順、 芦田 譲</p>	<p>土木工学・建築学委員会 幹事 川島一彦(東京工業大学) Tel:03-5734-2922 e-mail: kawasima@cv.titech.ac.jp</p>
IUTAM分科会 (機械工学委員会)	<p>平成18年1月23日～平成20年9月30日</p>	<p>(委員:11名) 小林 敏雄、池田 駿介、 村上 周三、矢川 元基、 大島 まり、儀我 美一、 和田 章、神部 勉、 上谷 宏二、渡邊 英一、 宮内 敏雄</p>	<p>機械工学委員会 小林敏雄 e-mail: kobaya@jari.or.jp</p>
今後の 分科会設置方針等	<p>当面、現在の分科会構成と、関連する課題別委員会における活動により進める。</p>		
当面予定している 具体的活動	<p>「国土と環境分科会」、「建築と社会分科会」の活動の他に、課題別委員会「地球規模の自然災害に対して安全・安心な社会基盤の構築検討委員会」および「子供を元気にする環境づくり戦略政策検討委員会」では土木工学・建築学委員会のメンバーが中心となって進めている。地球規模の自然災害に対して安全・安心な社会基盤の構築については、国土交通省より大臣諮問を受けた。国土交通省とは、様々な課題について連携を図るべく、意見交換を密にする。また、国際対応分科会としてWFEO分科会、IUTAM分科会があるが、WFEOに関しては土木工学・建築学委員会が中心となる。IUTAMについても緊密な関係を持つ。これらの国際対応情報は土木・建築分野の学協会にきめ細かく提供する体制を構築する。</p>		

日本学術会議第三部 分野別委員会の組織と活動ファイル

(2006年7月26日現在)

1 分野別委員会名	材料工学委員会		
分野の活動方針	学術、産業の基盤となる材料工学は、21世紀において更に新規分野の開拓、広領域分野の融合が要請されている。既存の狭い領域、縦割りの学協会活動に捉われることなく、将来の材料工学研究のあるべき姿、産業との関わり、それを担う人材育成に関する方策について検討し提言を行う。		
委員会の組織方針 ・基本的役割	金属、セラミックス、高分子からバイオマテリアルに至るまで幅広い分野の研究者、技術者を結集し、関連学協会、産業界とも連携して課題解決に当たる。材料工学とナノテクとの連携、境界領域の開拓、材料と社会等の課題を設定し、本委員会が先導し、関連委員会と連携してその解決策を示す。		
委員会委員	(委員:18名) 馬越 佑吉、早稲田 嘉夫、岡野 光夫、前田 正史、澤本 光男、 高原 淳、岸 輝雄、北澤 宏一、佐久間 健人、井上 明久、 岡田 益男、片岡 一則、豊田 政男、細野 秀雄、牧島 亮男、 村上 正紀、山本 雅彦、吉田 豊信	(役員と連絡先) 馬越佑吉委員長 (e-mail: umakoshi@mat.eng.osaka-u.ac.jp)、 早稲田嘉夫副委員長、 岡野光夫幹事、 前田正史幹事	
分科会の設置方針 ・基本的役割	未来の材料、日本の材料戦略、緊急課題の抽出、分野横断型の統合的・融合的学際領域を発展させるための体制整備、研究促進策等についての各種政策提言を目指す。		
2 分科会等名称	目的・活動方針 ・設置期間の目安	分科会等委員	役員と連絡先
バイオマテリアル分科会	平成18年7月1日～平成20年6月30日	(委員:5名) 馬越 佑吉、岡野 光夫、 岸 輝雄、高原 淳、 片岡 一則	馬越佑吉
科学・技術の発展のための知覚情報取得技術の強化に関する検討分科会(基礎生物学委員会・物理学委員会・化学委員会・総合工学委員会)	広い分野における知覚情報貢献度の解析を行い、各種情報収集機器の有効性の評価や内外での優劣の解析を行う。そして、知覚情報収集機器の優位確立の方策の検討と提言を行う。 平成18年5月25日～平成19年12月31日	(委員:13名) 外村 彰、岸 輝雄、 北澤 宏一、十倉 好紀、 柳田 敏雄、黒岩 常祥、 二瓶 好正、藤好 好則、 小川 誠二、飯島 澄男、 市野瀬 英喜、 橋詰 富博、難波 啓一	物理学委員会 (当面の世話役) 外村彰 日立製作所・フェロー Tel: 049-296-6111 E-mail: tonomura@harl.hitachi.co.jp
今後の分科会設置方針等	バイオマテリアル分科会、材料工学強化分科会(設置検討中)を含め、各分科会を中心に活動し、委員会は分科会の検討結果を踏まえての提言案をまとめる。		
当面予定している具体的活動	材料工学委員会主催材料工学連合講演会の実施による学協会の連携、分野融合を図る。また、材料工学分野の問題点、社会の要請を整理、検討し、その解決のための分科会を設置する。		

第3期科学技術基本計画(抜粋)

平成18年3月28日
閣議決定

第3章 科学技術システム改革

3. 科学技術振興のための基盤の強化

(6) 学協会の活動の促進

(学協会の役割)

学協会は、研究成果の発表、知識の交換、研究者相互及び国内外の学協会との連絡提携の場として、大学等の研究機関を越えて我が国の研究活動を支える存在であり、我が国の科学技術の国際的地位を向上するためには、これら学協会の自助努力による改革を促し、機能を強化する必要がある。

また、学協会には、その社会的役割を意識しつつ、科学技術に関する社会との積極的なコミュニケーション活動、児童生徒の国際科学技術コンテストへの参加支援、技術者の継続的能力開発への貢献など広がりのある活動が期待され、国としても、これらの活動が活発に行われるよう積極的に支援する。

(学協会の国際競争力の強化)

論文誌による研究情報の発信・流通がインターネットの普及等により急速にグローバル化し、我が国の学協会は、資本力等で勝る欧米学協会に対し情報発信力が相対的に低下しており、研究成果の発表における国内学協会離れ等が懸念される。

このため、学協会は、情報通信技術等を用いて研究情報の収集・分析・発信・流通の能力を高めるための基盤整備を行うとともに、海外研究者の招へいなど人材の活発な交流や情報通信技術の利用による情報発信の強化等により、研究集会の活性化を図ることが期待される。さらに論文誌の国際競争力強化の観点から、関連分野の論文誌との統合も含め、自立・発展への自助努力の下、論文誌の編集・査読における国際化や情報通信技術の活用を進めることなどが期待される。国は、これら学協会の改革を促し、その機能を強化するため、競争的かつ重点的な支援を行う。

○今後の予定

(1) 幹事会

- | | | |
|-----------|-----------------|---------|
| ① 第23回幹事会 | 平成18年 9月21日 (木) | 14:00から |
| ② 第24回幹事会 | 平成18年10月 2日 (月) | 17:30から |
| ③ 第25回幹事会 | 平成18年10月 3日 (火) | 12:00から |
| ④ 第26回幹事会 | 平成18年10月 4日 (水) | 16:00から |
| ⑤ 第27回幹事会 | 平成18年10月26日 (木) | 14:00から |
| ⑥ 第28回幹事会 | 平成18年11月22日 (水) | 14:00から |
| ⑦ 第29回幹事会 | 平成18年12月21日 (木) | 14:00から |
| ⑧ 第30回幹事会 | 平成19年 1月25日 (木) | 14:00から |
| ⑨ 第31回幹事会 | 平成19年 2月22日 (木) | 14:00から |
| ⑩ 第32回幹事会 | 平成19年 3月22日 (木) | 14:00から |
| ⑪ 第33回幹事会 | 平成19年 4月 9日 (月) | 総会終了後 |
| ⑫ 第34回幹事会 | 平成19年 4月10日 (火) | 総会終了後 |
| ⑬ 第35回幹事会 | 平成19年 4月11日 (水) | 委員会終了後 |

(2) 部 会

- ・ 平成18年10月 2日 (月)、 3日 (火)

(3) 連合部会

- ・ 平成19年 2月13日 (火)

(4) 総 会

- ① 平成18年10月 2日 (月) から 4日 (水) まで [秋の定例総会]
- ② 平成19年 4月 9日 (月) から11日 (水) まで [春の定例総会]

日本学術会議 会議予定

時期	総会・幹事会	部	企画委員会	選考委員会	科学者委員会	科学と社会委員会	国際委員会	課題別委員会	地区会議	その他
8月	24日14:00～ 第19回幹事会		30日13:00～ 第3回年次報告 等検討分科会				5～9日(予定) 日本・モンゴル二 国間学術交流派遣 (モンゴル) 1日 16:00～17:00 第1回 基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同 細胞生物学分科会(委員長、副委員長、幹事の選出について 等) 17:30～20:30 第5回 情報学委員会・第1回 情報学委員会 情報学推進分科会 合同委員会(最近の経過報告・二次連携委員 等) 3日 10:00～12:00 第2回 電気電子工学委員会 URSI分科会(URSI分科会の構成について 等) 6日 13:00～16:00 第7回 科学と社会委員会 科学力増進分科会(シンポジウムについて 等) 7日 15:00～17:00 第1回 基礎生物学委員会・応用生物学委員会・基礎医学委員会合同 分子生物学分科会(委員長、副委員長、幹事の 選出について 等) 8日 16:00～18:00 第4回 土木工学・建築学委員会 拡大役員会(分科会について 等) 9日 10:00～12:00 第1回 基礎医学委員会 分子医科学分科会(委員長、副委員長、幹事の選出について 等) 11日 13:00～15:00 第1回 基礎医学委員会生体医工学分科会(委員長、副委員長、幹事の選出について 等) 16日 14:00～16:00 第2回 農学基礎委員会 水問題分科会(課題審議について 等) 17日 11:00～12:00 第1回 臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同 生活習慣病対策分科会(委員長、副委員長、幹事の選出につ いて 等) 22日 14:00～15:00 第1回 臨床医学委員会 救急・麻酔分科会(委員長、副委員長の選出について 等) 16:00～18:00 第1回 臨床医学委員会 終末期医療分科会(委員長、副委員長、幹事の選出について 等) 18:00～20:30 第6回 情報学委員会・第2回 情報学委員会 情報学推進分科会 合同委員会(最近の経過報告 等) 23日 12:00～15:00 第1回 基礎生物学委員会・物理学委員会・化学委員会・総合工学委員会・材料工学委員会合同 科学・技術の発展 のための知覚情報取得技術の強化に関する検討分科会(委員長及び幹事の選出について 等) 25日 10:00～12:00 第7回 科学者の行動規範に関する検討委員会(科学者の行動規範について 等) 10:00～13:00 第2回 健康・生活科学委員会 子どもの健康分科会(「子どもの健康」の現状と課題について 等) 28日 13:00～15:00 第2回 生産農学委員会 畜産学分科会(分科会の副委員長、幹事(2名)の選出について 等) 13:30～17:00 第6回 言語・文学委員会(言語・文学分野関連学会の連絡協議会(仮称)設立の可能性について 等) 30日 15:00～17:00 第1回 臨床医学委員会 臨床系大学院分科会(委員長、副委員長、幹事の選出について 等) 31日 14:00～15:00 第3回 史学委員会 IUOAS分科会・第1回 史学委員会 IUOAS分科会 ICANAS小委員会 合同会議(IC ANAS小委員会の役員選出 等)	4日 13:00～17:00 第4回 学術・芸術資料保全体制検討委員会(意見聴取(図書館関 係等) 等) 4日 10:00～12:00 第2回 地球規模の自然災害に対して安全・安心な社会基盤の構 築委員会 役員会(報告書の構成について 等) 14日 15:00～17:00 第2回 科学者コミュニティと知の統合委員会 役員会(今後の進 め方について 等) 18日 10:00～12:00 第2回 地球規模の自然災害に対して安全・安心な社会基盤の構築 委員会 地球規模の自然環境の変化と自然災害の予測分科会(委員長の選出 等) 21日 10:00～12:30 第3回 地球規模の自然災害に対して安全・安心な社会基盤の構築 委員会 災害に対する社会基盤の脆弱性の評価と適正な水準と配向に関する検討分科会 (古閑委員からの話題提供 等) 23日 10:00～12:00 第1回 科学者の行動規範に関する検討委員会 役員会(科学者の 行動規範に関する調査について 等) 28日 14:00～17:00 第3回 科学者コミュニティと知の統合委員会(学問論、学としての 理念の統合、学術の在り方について 等) 29日 10:00～12:00 第7回 学術とジェンダー委員会(本委員会の報告書について 等) 31日 10:00～12:00 第3回 地球規模の自然災害に対して安全・安心な社会基盤の構築 委員会 地球規模の自然環境の変化と自然災害の予測分科会(真木委員からの報告 等)		
9月	14日 第4回会 長候補者推薦委 員会 21日14:00～ 第20回幹事会		5日 第9回企画 委員会・第4回 年次報告検討等 分科会 4日14:00～ 第13回選考委員 会 25日14:00～ 第14回選考委員 会	27日15:00～ 17:00 第12回広報分科 会	3日～ 共同主催 ⑧ 第16回国際顕 微鏡学会議(札 幌) 8-9日 持続可能 な社会のための科 学と技術に関する 国際会議2006-イ ノベーション・エ コ・システムー (京都) 13日 「科学技術 と産業、国際シ ンポジウム2006 科 学技術の光と影- 影の克服に向けて -」(東京) 14日 アジア社会 科学研究協議会連 盟(AASRE C)理事会(東 京) 19日15:00～第8 回国際委員会	3日～ 共同主催 ⑧ 第16回国際顕 微鏡学会議(札 幌) 8-9日 持続可能 な社会のための科 学と技術に関する 国際会議2006-イ ノベーション・エ コ・システムー (京都) 13日 「科学技術 と産業、国際シ ンポジウム2006 科 学技術の光と影- 影の克服に向けて -」(東京) 14日 アジア社会 科学研究協議会連 盟(AASRE C)理事会(東 京) 19日15:00～第8 回国際委員会	4日 10:30～12:00 第6回 歯学委員会(今後の活動計画 等) 10:30～12:00、12:00～13:00 第1回 歯学委員会 歯学教育分科会(今後の活動計画 等) 10:30～12:00、13:00～14:00 第1回 歯学委員会 基礎系歯学分科会(今後の活動計画 等) 10:30～12:00、13:00～14:00 第1回 歯学委員会 臨床系歯学分科会(今後の活動計画 等) 10:30～12:00、13:00～15:00 第1回 歯学委員会 病態系歯学分科会(今後の活動計画 等) 15:00～17:00 第3回 健康・生活科学委員会・歯学委員会合同 禁煙社会の実現分科会(日本学術会議敷地内禁煙にむけての企画委 員会提案の結果について 等) 15:00～17:00 第2回 生産農学委員会 人と動物の関係分科会(分科会の副委員長、幹事(2名)の選出について 等) 17:30～19:30 第1回 土木工学・建築学委員会 建設と社会分科会(委員長、幹事の選出 等) 5日 13:30～14:30 第1回 情報学委員会 ユビキタス空間情報社会基盤分科会(委員長等の選出について 等) 6日 10:00～12:00 第5回 教師の科学的教養と教員養成に関する検討委員会(教師の科学的教養 中間報告について 等) 7日 13:30～14:30 第1回 数学委員会 数理統計学分科会(委員長及び幹事の選出について 等) 16:00～18:00 第2回 健康・生活科学委員会 健康・スポーツ科学分科会(本分科会の活動計画 等) 12日 16:00～18:00 第2回 臨床医学委員会・薬学委員会合同臨床試験・治験推進分科会(万有製薬(株)、三共(株)からのヒアリン グ 等) 25日 14:00～17:00 第2回 薬学委員会 薬学教育分科会(シンポジウムについて 等)	P課題別委員会(科学者の行動規範)の報告(予定) 4日 11:30～12:45 第4回 子どもを元気にする環境づくり戦略・政策検討委員会(シ ンポジウムについて 等) 5日 18:30～20:30 第3回 地球規模の自然災害に対して安全・安心な社会基盤の構築 委員会 災害軽減のための社会システムと危機管理の在り方の検討分科会(中央防災会議 における取り組みについて 等) 8日 16:00～18:00 第3回 科学者コミュニティと知の統合委員会 役員会(報告書の構 成について 等) 19日 10:00～12:00 第4回 ヒト由来試料・情報を用いる研究に関する生命倫理検討委 員会(報告書案について 等) 22日 15:00～17:00 第1回 研究評価の在り方検討委員会(役員選出 等)	2日 中国・ 四国地区会 議、科学者との 懇談会、学 術講演会(高 知工科大学) 20、25、26日 連携委員説明 会	
10月	2日～4日 第149回総会 2日(総会終了 後) 第21回幹事会 3日(総会終了 後) 第22回幹事会 4日(委員会終 了後) 第23回幹事会 26日14:00～ 第24回幹事会						「秋の定例総 会」 第5回国際委員会 16、17日 日米安 全・安心イニシア ティブ会合		(秋の定例総 会時) 代表 幹事会	
11月	22日14:00～ 第25回幹事会				8日18:00～21: 00 第13回広報分科 会				17日 中野地 区会議、科学 者との懇談 会、学術講演 会(三重大 学)	

時期	総会・幹事会	部	企画委員会	選考委員会	科学者委員会	科学と社会委員会	国際委員会	課題別委員会	地区会議	その他
12月	21日14:00～ 第26回幹事会				13日18:00～ 第14回広報分科 会					
平成19年 1月										
2月							(未定) 国際会 議主催等分科会			
3月										
4月							1～6日 共同主催 ① 第2回国際ハ イオ数学会総会			
5月										
6月							3～8日 共同主催 ② 原子核物理国際 会議 — 12～18日 共同主 催③ 第21回太平 洋学術会議 14～16日 アジア 薬術会議			
7月							22～27日 共同主 催④ 新芳香族化 学国際会議			
8月							2～6日 共同主催 ⑤ 有機合成指向 有機動機化学国際 会議 21～25日 共同主 催⑥ 第6回国際 動物実験代替学会 (未定) 持続可 能な社会のための 科学と技術に關す る国際会議2007			
9月							27～30日 共同主 催⑦ 第17回アジ ア社会科学研究協 議会 連盟総会			
10月							5～8日 第5回國 際自律神経科学会 議			